

關稅定率法中改正法律案特別委員會會議事速記録第五號

大正十五年三月十八日(木曜日)午後二時
三十九分開會

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 開會イタシマス、本日(ハニ二十一「バーデ」ノ第四類カラデアリマス

○和田彦次郎君 大藏省ノ御方デモ、何レノ省ノ御方デモ宜シウゴザイマスガ、此四類ノ第九十一、眞珠ト申ス項ニ付テ御伺ヒ申シタイ、前年奢侈品ニ付テ稅ヲ御上ゲンナ、タコトガアリマシテ、其當時ノ御說明ニ基イテモ珊瑚樹デアルトカ、或ハ眞珠デアルトカ、若クハ此金銀細工ナル物ハ、奢侈品トシテ見ルコトハモウ明瞭ナ話デアルト云フノデ、當時稅率ヲ御改メニナッタコトガアル、其際奢侈品ノ中デモ遺漏ノアル點ハ追テ改正スル積リデアルカラ、其場合ニ於テ十分調査ヲシテ遺漏ノ點ヲ補フト云フコトノ御說明ヲ承「タコトモ記憶シテ居リマス、此眞珠ノ如キハ從價ノ五分ト云フモノデ、現行法通り茲ニ記シテゴザイマス、眞珠ノ用途ニ至リマシテハ多々アラウト思ヒマスアレドモ、或ハ此眼病、眼ノ病ノ爲ニ用ヒマス所ノ醫家ノ資料ニ致シマス分ハ別ノ方法ヲ設ケテモ宜カラウト思ヒマスガ、單ニ茲ノ眞珠トシテ從價五分ト云フノハ近年奢侈品ニ付テ重稅ヲ課スルト云フ御趣意ニ悖リハセヌカ、唯今申ス通りニ、醫師ガ用ヒマス物ハ、別ノ方法ヲ以テ戻シ稅ナリ、何ナリスル方法モアラウト思ヒマス、眞珠ノ如キハ全然是ハ醫術用ヲ除クノ外ハ奢侈品ト常識上認メザルヲ得ヌ、是ハ從價ノ五分ト云フコトハ、奢侈品禁制ノ意義ニ、或ハ趣旨ニ背キマセヌカト云フコト

ノ疑ヲ致スモノデアリマス、ドナタデモ宜シウゴザイマス、ドウカ御說明ヲ願ヒマス

○政府委員(矢部規矩治君) 甚ダ失禮デゴザイマスガ、唯今ノ御尋ネハ眞珠ノ五分ト云フノハ、不適當デアアル、重稅デモ宜カラウト云フヤウナ御尋ネノヤウニ承知イタシテ宜シウゴザイマス

○和田彦次郎君 サウデス

○政府委員(矢部規矩治君) 御尋ネノ如ク眞珠ニ付キマシテハ從價六割ト云フ重稅ガ掛ケラレテ居リマシタノデゴザイマスガ、十四年ノ改正ニ於キマシテ五分ニ引下ゲマシタノデアリマス、此五分ニ引下ゲマシタノハ、斯様ニ細イ物ハ、「ダイヤモンド」其他ノ貴石ト同ジ様ニ取締ガ立タナイ、各國共ニ斯様ナ物ハ輕稅ヲ掛ケ、輕稅ノ下ニ輸入ヲセセテ、正當ナル手續ノ下ニ手續ニ從ハシテ輸入ヲ致サセテ居ルト云フコトニシテアルノデ、我が國ニ於キマシテモ四十四年ノ一般改正ノ時分ニ貴石眞珠、斯様ニ細イ物ハ皆從價五分ニ引下ゲマシタ、所デ十三年ニ贅澤稅ガ布カレルトニナリマシテ、貴石並ニ、是等眞珠ノ如キモノモ同法ニ組入レラレルトニナリマシタノデ、現在ハ從價十割ヲ掛ケテ居ルノデゴザイマス、脫稅ノ點、其他ニ付キマシテハ法ヲ離レテ別ニ十分ナ注意ヲ以テ取締ルト云フコトニ致シマシテ、斯様ナル物ハ眞先キニ贅澤稅ニ依ルベキモノトシテ入レマシタヤウナ次第デ、現在ハ十割ヲ掛ケテ居リマス

○和田彦次郎君 此改正案デハ現在十割掛ケテアルモノヲ、五分ニナツテ居ルノハドウ云フ譯デスカ

○政府委員(矢部規矩治君) 是ハ一般ノ御說明ヲ、主稅局長又大臣カラモ申上ゲマシタ如ク、贅澤稅ニ係「テ居ルモノハ其儘手ヲ著ケズニ置ク、デ此輸入稅表ヲ離レマシテ別ニ十割ヲ掛ケルト云フ法律ガゴザイマスデスカラ、此五分ト云フノハ、效力ヲ發揮シナイ五分デゴザイマス……ソレデ備考ヲ御覽下サイマスト分リマスガ、此對照表ガゴザイマスガ、對照表ノ十八「バーデ」ノ所贅澤稅ニ係「テ居ルモノハハ備考ニ書イテゴザイマス、ソレニ付キマシテハ十割ノ稅ヲ掛ケラレテ居リマス

○和田彦次郎君 是ハ討論ノヤウニナリマスカラ、唯今ハ質問ノ場合デゴザイマスカラ敢テ申上ゲマセヌケレドモ、法律ヲ改正スル場合ニハ三ツモ四ツモアルモノヲ纏メテ一ツノ改正法律ニスベキガ當然ダと思ヒマス、斯ノ如キ何百種ニ互ル所ノモノヲ御改正ニナツテ、御改正ナサルノニ、之ニ斯ウ書イテアルケレドモ外ノモノデアラウト云フガ如キコトヲスルノハ、法律改正ノ趣意カラ申シマシテモ其當ヲ得タモノデナイヤウニ常識上考ヘマス、他ニ例ガアルカハ存ジマセヌケレドモ、私ハソレハ惡イ例デア

ガ、唯今御述ベニナリマシタヤウニ成ルベク法律改正ノ際ニ於キマシテハ、色々ノ法律ヲ出來ルダケ、之ヲ單行法律ヲモ合セマシテ、見易イヤウニ處置イタシマスト云フコトハ當然ノコトニ考ヘマス、洵ニ御趣旨ハ御尤モト考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ銅眞鍮等ニ關シマスル特別ノ法律並ニ昨年三月公布ニナリマシタ法律、是ハ一緒ニ合シタコトニ致シタノデアリマスガ、此贅澤品等ノ關稅ニ關シマスル特別ノ法律ハ、是ハ大臣ガ昨日モ申上ゲマシタ通り、今日ノ時勢ニ對シマスル特別ノ處置デアリマシテ、是ガ關稅率トシテ永久ニ存置スベキ性質ノモノデハナイヤウニ考ヘルノデアリマス、唯、今日ノ事情已ムヲ得ナイモノトシテ取ラレタ處置デアアルノデアリマスカラ、此一般ノ永久ノ性質ヲ帶ビテ居リマスル法律ノ中ニ之ヲ入レマシテ即チ此關係ノ物ダケハ十割ト云フコトニ致シマスト云フコトハ、他トノ權衡上カラ致シマシテモ適當デナイ、斯ウ云フ特別ノ性質ヲ持ッテ居ル法律デアリマスノデ、之ヲ合セナカッタ次第デアリマス、然ラバ其法律ヲ廢止スル時ニ、今日据置イタ率ガ適當デアアルカト云フコトヲ申シマス、是ハ昨日申上ゲマシタヤウ、是ハ決シテ適當デアルトハ考ヘテ居リマセヌノデアリマス、或ル物ニ付キマシテハ勿論他トノ權衡上、内地ノ生産ノ狀況、消費ノ狀況等ヲ考ヘマシテ、適當ノ機會ニ改正ヲ致シマシテ其法律ヲ廢止スルト云フ手段ヲ取ルベキモノデアルト考ヘテ居リマス、唯今日ノ場合ニ於キマシテハ特別ノ法律デアリマス關係上、合セナカッタ

第アアリマシテ、御趣旨ハ誠ニ御尤モト思ヒマスルガ、此法律ダケハ特別ノ關係ニアルト云フコトヲ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 其四類ハ宜シウゴザイマスカ、四類ニ關スル御質問ハ……ソレデハ五類ニ移リマス

○内田嘉吉君 百八ノ獸脂ノ所デ牛脂ニ付テ御伺イタシマスガ、是ハ從來ハ無稅デアリマシタノヲ、今回ハ每百斤ニ付テ一圓二十錢ノ課稅ヲスルコトニ御定メニナッタヤウデアリマスガ、此牛脂ト云フモノハ、日本デ石鹼ヲ作ルノニ必要ナモノデアッテ、今日ハ次第ニ硬化油ヲ石鹼ノ原料ニ使ヒマスガ、併シ優等ノ製品ヲ作ルニハ、ドウシテモ牛脂ヲ使ハナケレバナラヌト云フコトニ承知イタシテ居リマス、次第ニ硬化油ノ使用ノ區域ハ増シテ參ルカモ知レマセヌケレドモ、尙ホ獸脂ニ稅ヲ掛ケルト云フコトハ日本ノ石鹼ヲ製造スル上ニ於テ相當ニ影響ガアリハセヌカト思ヒマスノデ、其點ニ關シマシテ、大藏省ノ政府委員デモ、又商工省ノ政府委員デモ宜シウゴザイマスカラ、ソレヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(黑田英雄君) 一應ソレデハ私カラ御答申上ゲマシテ、不十分デアリマシナラバ、何レ専門ノ方カラ御答スルコト、致シマス、牛脂ニ關シマシテ現行無稅デアリマスガ、之モ御説ノ通り一圓二十錢ニ課稅ヲ致スコトニ致シタノデアリマス、是ハ御説ノ通り牛脂ハ石鹼トカ或ハ蠟燭等ノ原料デアリマスノミナラズ、一面ニ於テハ「ダイナマイト」等ノ……此火藥ノ製造ノ原料トナリマスル「グリセリン」ノ原料ニ相成テ居タモノデアリマス、從テ今日マデ是等ノ原料ト致シマシテモ、未ダ内地ニ於テ適當ノ生産ガ十分デナイト云フ風ナ關

係カラ致シマシテ無稅ニ相成テ居タノデアリマス、併シ是等ノ物ハ段々此自給ヲ致シテ參ラナケレバナラヌデアリマシテ、自給ヲ致シマスルコトハ産業ノ上カラ申シマシテモ、亦軍事上カラ申シマシテモ必要ナコトト考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ一方ニ於キマシテハ「グリセリン」ニ付キマシテ、別ニアリマスルヤウニ、適當ニ課稅ヲ致スコトニシテ居ルノデアリマス、此牛脂ニ付キマシテ代リマスル物ト致シマシテハ、唯今御述ベニナリマスルヤウニ此硬化油ニ付キマシテ、殊ニ大豆ノ硬化油ノ如キハ石鹼ノ原料トシテモ相當用ヒ得ルヤウニ

段々改良モサレテ參テ居ルノデアリマス、是等ノ事業ヲ相當ニ發達セシメルト云フコトハ、前申上ゲマスルヤウニ色々ノ原料ニナリマスル所ノ物ノ、内地ノ生産ト云フモノヲ發達セシムルコトニ、相成ルノデアリマス、ソレ等ノ點ヲ考慮イタシマシテ、牛脂ニ對シテ丁度一圓二十錢ハ大體五分位ノ稅ニナッテ居ルノデアリマス、五分位ノ輕イ稅ヲ之ニハ掛ケテ、サウシテ一方ニハ是ニ代テ參テ居リマスル所ノ物ノ生産ト云フモノノ發達ヲ助長シタイト云フ趣旨カラ致シタノデアリマス、石鹼等ニモ多少是ガ爲ニ影響イタスノデアリマスガ、石鹼ノ生産費等ニ對シマシテハ、是等ハ極ク僅カナ影響デアリマシテ、僅カ一分内外ト云フ位ノ影響ダラウト考ヘテ居ルノデアリマス、之ニ依ッテ内地ノ色々ノ事業ノ原料トナリマスル物ノ生産ガ出來ルコトニ相成リマスレバ國策ノ上カラ見マシテ必要ガアルト云フ風ナ考カラ致シマシテ、五分程度ノ輕イ稅ヲ盛リマシタ次第デアリマス

○内田嘉吉君 大體ノ御説明ハ了解イタシマシタガ、續イテ牛脂ニ課稅ヲスルコトハ内地ニ於ケル産業ノ目的……發達ノ目的デアルト云フ御話デアリマスガ、此産業ト云フモノハ牛脂ヲ拵ヘルコトヲ御努メニナルト云フコトデスカ、牛脂ノ代用品ヲ内地デ拵ヘルヤウニ努メラレルト云フ意味カ、其邊ガ唯今ノ御説明デハ明カデナカッタノデアリマスガ、ソレヲモウ一應伺ヒタイ、ソレカラ此牛脂ニ付キマシテハ私今餘リニ之ヲ固執シテ質問ヲスル譯デアリマセヌガ、會テ有稅ノ時モアッタ、又突如トシテ無稅ニ變タコトモアリマス、又今度無稅カラ有稅ニスルト云フノハ、餘リ此點ニ對スル政府ノ御見込ガ屢々變遷シテ來テ居ルヤウニ思ヒマスノデ、斯様ニ色々ニ變ルト云フコトハ當業者ガ商賣ヲスル上ニ非常ニ迷惑ヲスルコトノヤウニ感ジマスノデ、今回ハ篤トソレ等ノ點ニ付テ御考究ヲナサッテ、サウシテ此案ヲ御出シナリマシタカ、其邊ヲ伺ヒタイノデアリマス

○政府委員(黑田英雄君) 牛脂ニ課稅ヲ致シマシテ内地ノ産業ニ對シテ助長イタシタイト申シマシタノ、内地ノ天然牛脂デハナイノデアリマシテ、即チ牛脂ニ代ルベキ物ノコトヲ申上ゲタ次第デアリマス、即チ主トシテ大豆ノ硬化油或ハ此魚油ノ硬化油ト云フ風ナモノガアリマス、即チ牛脂ニ代用セラレ得ル物ニ付キマシテ適當ニ課稅ヲ致シマシテ此天然牛脂ニ對シマスル競争力ヲ與ヘタイト云フ趣旨デアッタノデアリマス、ソレカラ第二ニ御述ベニナリマシタ牛脂ニ對シマシテハ、以前ニ課稅ヲ致シテ居リマシタノデアリマスガ、之ヲ廢止イタシマシタノハ、此牛脂ガ前申上ゲマスルヤウニ、一方ニハ石鹼等ノ材料ニ用ヒラレマスノミナラズ、一方ニハ又此火藥等ノ原料ニナリマスル軍事上必要ナルモノトシテ用ヒラレテ居ルノデアリマシテ、是等ノモノト致シマシテ、或ハ魚油等ヲ代用スルト云

フコトニ致シマシテモ、マダソレニ依ッテハ十分ナル成績ヲ舉ゲルコトハ出來ナイト云フ風ナ狀況デアッタノデアリマス、而シテ牛脂ニ對スル課稅ヲ止メマシテ、無稅ニ致シタノデアリマスルガ、今日ニ於キマシテハ魚油ノ方ノ硬化油ニ付キマシテモ、亦大豆ノ硬化油ニ付キマシテモ、段々牛脂ノ代用ヲサレ得ルト云フ風ナモノガ出來ルヤウナ狀況ニ相成ッテ參タノデアリマスカラ、前申上ゲマスルヤウニ、此人造牛脂ニ對シマシテ、多少競争力ヲ與ヘタイト云フ趣旨デ、今回ハ稅ヲ設ケマシタ次第デアリマス

○稻畑勝太郎君 伺ヒタイノデスカ、日本ニ於ケル牛脂ノ需要高ト、國內ニ於ケル牛脂ノ現今生産スル高、ソレカラ國內ノ需要高……

○政府委員(宮内國太郎君) 先程内田サンカラ致シマシテ、牛脂ノ關稅ハ前ニハ有稅デゴザイマシタノヲ、其後無稅ニナリマシテ、又今回更ニ有稅ニナッタト云フコトニ付キマシテ御尋ガゴザイマシタ、其點ヲ補充イタシマシテ、更ニ内田委員ニ御答ヲ致シタイト思ヒマス、牛脂ニ付キマシテハ大正九年ニ現行ノ無稅トナス以前ニ於キマシテハ、五分稅ノ八十錢ヲ課シテ居ッタノデゴザイマスガ、此戰爭中ニ於キマシテ海軍用ノ「グリセリン」ガ牛脂ヲ原料ト致シタモノニ限ラレテ居ッタモノデゴザイマスカラ、其關係カラ致シマシテ、之ヲ無稅ト致シタノデゴザイマス、然ルニ其後ニ至リマシテ、人造牛脂カラ出テ參リマスル「グリセリン」デアリマシテモ十分デアルト云フコトガ證明サレテ參リマシタノデアリマシテ、天然牛脂ヲ以テスル必要ガナクナッタノデゴザイマス、故ニ今回ニ於キマシテハ、先程主稅局長カラ御答申上ゲマシタ如

ト云フモノカヲ考ヘマシテ、之ヲ現行ノヤ
ウニ兩方面ニスルノガ適當デアルト云フヤ
ウニ考テ居ルノデアリマスケレドモ、其他
ノモノニ付キマシテハ必ズシモ雙方全部免
税イタス積リデハナイノデアリマス、ソレ

ソレソレヲ油ノ用途及油ノ工業ノ狀況
又ハ内地ノ生産ノ狀況等ヲモ考慮イタシマ
シテ決定致シタイ、勿論大豆以外ノモノニ
付キマシテモ認メタイト考ヘテ居ルモノモ
アルノデアリマスガ、全部ニ付キマシテ雙

方免除スルト云フ考ハナイ、勿論油、油糟
ノ方ニ付キマシテ大體免稅ヲ致シタイト考
ヲ有^レテ居リマスガ、油ニナリマス、是ハ
油ノ工業ノ現行狀況ト大シタ差ハナカラウ
ト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○内田嘉吉君 遞信大臣カ折角來ラレテ居
リマスカラ、此處デ船ノ……
○内藤久寛君 遞信大臣ガ御出ニナリマシ
タカラ、私カラ質問シタイト思ヒマス、古
船ノ輸入……

○委員長(伯爵柳澤保惠君)　ソレデハ御相
談イタシマスカ、五類ノ部ハ船ノコトハナ
イヤウデスケレドモ、遞信大臣ガ御見エニ
ナリマシタカラ、便宜此際御質問ヲ許シタ
イト思ヒマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○内藤久寛君 只今ノ問題ハ、古船ノ輸入ヲ禁止サレテハドウカト云フ御意見ヲ伺フノデアリマスガ、ソレハ此稅率法ノ條文ノ一條ガ禁上品ノロトグ書イテアリマス、

此處ノ所ニ二十年若クハ二十五年ヲ經マシ
タ古イ船ハ輸入ヲ禁ズルト云フコトニサレ
テハドウカ、ソレニ何カ御考慮ニナッタコ
トハナイカト云フコトヲ御尋ネシタイノデ

○國務大臣(安達謙藏君) 此船ノ關稅ノコ
トニ付キマシテハ、色々研究イタシマシタ

ガ、老朽ノ船ヲ入レナイヤウニスルト云フ
大體ノ方針ニ付キマシテハ、色々研究イタ
シマシタ、併シソレハ絶對ニ禁止スルト云
フコトハ無理ダラウ、斯ウ云フコトニ研究
ノ結果ナリマシタカラ、ソレダカラ今度
ノ改正案ノ通り二十年ヲ限リテアリマシ
タノデ、ソレデ今度ノ改正案ノ稅率デモ、
サウ今マデノヤウニドシ、古船ガ這入
テ來ヤウト遞信省デハ考ヘテ居リマセヌ

○内藤久寛君 昨日ノ説明ニナリマシタ所
デモ、矢張り十圓ガ：：今度二十年後ノモ
ノハ十五圓デスカ、五圓タケ殖エルト云フ
コトデスカ、ソレハ誠ニ僅少ナモノデアリ
マシテ、外國デハ絶エズ二十四年毎ニ：：
四年目ニナリマスト、大變嚴重ナル検査ヲ
行ヒマシテ、多クハ皆廢船ニナル譯ノヤウ
ニ聞イテ居リマスガ、日本デハ古イモノヲ
安ク買入レヤウト云フコトノ爲ニ、年々ソ
レハ大分這入ッテ參リマシタ、本年ナドモ矢
張り、昨年から本年ニ掛ケマシテモ、追々
這入ッテ居ヤウニ聞イテ居リマス、ソレニ當
テ十圓ノモノガ十五圓ニ増シタト云フコトダ
ケデハ、幾ラモソレヲ抑制スル足シニハナル
マイト思フ、或ハモウ少シ高クシマスガ、
ソレヨリハ禁止サレタ方ガ宜クハナイカ、
日本ノダン、造船力ヲ増シテ參リマスト
カ、或ハ海權ヲ擴張スルトカ云フコトニ
ハ、ドウモ此古イ船ヲドシ、輸入スルト
云フコトハ如何ニモ不利益デアアル

○國務大臣(安達謙藏君) 何カス波男爵モ
之ニ付テ御質問ガアルト云フヤウデアリマ
スカラ、關聯シマシテ御一緒ニ答ヘタ方ガ
議事ノ進行上宜クハアリマセヌカ
○内藤久寛君 今斯波君ガ御出デガアリマ
セヌデアリマシタカラ、私カラ一通リ御話
シタノデ：：

○男爵斯波忠三郎君 私ハ今來マシタバカ
リデ内藤君ノ御質問ノ全部ヲ聞キマセヌデ
アリマシタガ、昨日遞信大臣ガ御出席デゴ
ザイマセヌデシタガ、質問ヲ發シタ、其質
問ハ今回ノ改正ニ依リマスト云フト、從來
船齡十年ヲ超エザルモノ、毎總噸數十五圓
ト云フモノヲ、今度ハ二十年ヲ超エザルモ
ノト、斯ウナッテ結果比較的古イ船ガ日本
ヘ這入ッテ來ル傾向ガ多クナル、二十年以
上ノモノガ僅カニ新造船ト比較シテ五圓ノ
差デアッテハ、古イ船ガ益、這入ル傾向ガ
リハシナイカ、從來ト雖モ、即チ現行制度
ニ於テモ日本ニハ非常ニ古イ船ガ澤山ニ這
入リツ、アル傾勢ガアルノデアリマス、海
運界ハ不況ダト言フテ居リナガラ今年ノ春
カラモ可ナリ大キナ噸數ガ、而カモ古イ船
ガ這入ッテ居ルト云フコトデ、諸外國ニ於テ
ハ將來海運業ノ發達ヲ期セムガ爲ニ古イ船
ヲ處分シテ殆ド「スクラップ」同様にノ値段
デ處分シテ、段々優秀ナ船ニ換ヘツ、アル
ノニ拘ラズ、我が國ハ古船ノ引受所見タヤ
ウナコトニナルト云フコトハ、將來我が國
ガ海運業トシテ立ツ以上甚シキ遺憾ナ點デ
ハナカラウカト云フ趣旨デ御質問シタノデ
アリマス、即チ今回ノ如キ稅ノ處方デアッテハ、
唯今申上デマシタガ如ク、古船ガ比較的澤
山這入ル、御承知ノ通り近頃何デモ非常ニ
安ク這入ッテ來ルノデアリマス、ソレニ毎
噸二十圓ト云フヤウナ稅率ヲ掛ケマシタ所
デ船價ガ總噸數一噸ニ付テ幾ラニナリマス
カ、五十圓ニナリマスガ、六十圓ニナリマ
スカ、免ニ角非常ニ程度ガ低イモノニナル
結果矢張り古船ノ輸入ト云フコトハ將來モ
免レナイデヤナカラウカ、然ラバ一方ニ於
テ我が國トシテハ、最モ獎勵助長セシメナ
ケレバナラヌト私共ハ考ヘテ居リマス造船
業ニ對シテ、如何ナル影響ヲ及ボスカ、其
點モ御考慮ニナッタルノデアルカ、斯ル稅ノ盛

方デアッテ他ニ獎勵ノ方法ガナクバ造船
業ニ對シテハ、其材料ニ對シテハ戻稅ヲス
ルト云フコトニナッテ居リマスルケレドモ、
ソレヲ加ヘマシテモ總噸數一噸十五圓ト云
フヤウナコトニナリマスト云フト、戻稅ヲ
加ヘテモ一割程度ノモノニナリハシナイカ
ト考ヘテ居リマス、此十五圓ト云フヤウナ
コトハ、確カスウ云フコトカラ出發シテ居
ルノデナイカト私ノ推測デアリマスガ、此
稅率ハ明治四十三年ニ變テ、其頃ノ總噸數
每噸十五圓ト云フコトニ御決メニナッタル
ハ其頃ノ船價デ言ヘバ是ガ一割カ、或ハ一
割少シ上ノモノデアッタルヲ思ヒマス、併
ナガラ現在ノ進歩シタ程度カラ申シマス
トドウデアアルカト云フト、船價ガ高クナッ
テ居リマス、總噸數ニ於キマシテ少シク優
秀ナ荷物船デアアルト一噸三百圓位スルノデ
ナイカト思ヒマス、二百乃至三百圓位ノ所
モノデナカラウカト思ヒマス、サウ致シマ
スト云フト、十五圓ノ稅率デアッテハ、戻稅
ガ幾ラカアッテモ、此稅率ハ非常ニ低イモ
ノニシカナラナイノデアリマス、而シテ造
船業ハ御承知ノ通りニ：：船齡ト云フモノ
ハ御承知ノ通りニ澤山ナ加工品ヲ必要トス
ルノデアリマスガ、ソレ等ノ構成品ノ各々
ハ一部分ハ今回ノ稅率ノ改正ニ依テ更定サ
レテ居ルノデアリマスガ、船舶造船業者ハ
益々苦シ目ニ遇フヤウニ想像サレルノデ
アリマス、其所デ遞信大臣ニ伺ヒタイノハ
獎勵ハ斯ウナッテ居ルトスレバ他ニ何カ御
獎勵ノ途ヲ御講ジニナルノデアアルカ、此
ニナッテ居ルノデアアルカ、此儘ニナッテ置
クナラバ果シテ造船業ト云フモノハ日本帝
國內ニ於テ將來：：完全ニ是マデ折角立派
ニ發達シタ造船業ト云フモノガ、從來ノ通
リ、又世界ノ趨勢ニ遅レザル如ク、進歩ス
ルカト云フコトヲ懸念シマスガ、其點ニ付

テノ御意見ヲ承リタイ、斯ウ申上デタノデ
アリマス
○國務大臣(安達謙藏君) 此關稅改正ニ付
キマシテ船舶ノ關稅ニ對スル、船舶ノ關稅
ヲ高メテ、内地ノ造船業ノ保護獎勵ヲスル
ト云フ考ト、ソレカラ船ト云フモノハ我が
國ノ海運政策上必要ナモノデアアル、ト云フ
茲ニ或ル意味ニ於テハ矛盾スル所ガアル、
其證據ニハ此關稅ヲ改正セラレルト云フ噂
ガ立チマシテカラ船主ノ方カラノ希望ハド
ウカト言ヒマス、十年未滿ノモノハ五圓ニ
シテ吳レ、僅ニ五圓、十年乃至二十年ノモ
ノハ十圓、二十年以上ハ二十圓、之ニ反シ
テ造船協會ノ方ハドウ云フ意見カ申シマス
ト古イ船モ新シイ船モ合セテ全部二十二圓
五十錢、殆ド禁止セイト云フ意味デスカ、
造船協會ノ方カラ言フテ來テ居ル、ソレデ
此海運業ヲシテ居ルモノト造船ヲシテ居ル
モノト云フモノガ、全ク意見ガ違ッテ居ル、
各々立場ガ違ヒマスカラ、是ハ尤モコト
ト考ヘマス、ソレデ遞信省ト致シマシテハ
今斯波男爵ノ御話ノ造船ノ獎勵保護ノ方カ
ラ鐵鋼材ナドハ鐵製品ナドノ内地デ出來ナ
イモノ又造ルニ困難ナルモノ、内地ニ於テ
引合ハナイヤウナモノハ、免稅シマスケレ
ドモ、内地デ出來ルモノハ是ハ内地ノ製產
品ヲ成ルベク保護シタイト云フ考カラ、幾
ラカ率ガ高クナルト云フコトモ已ムヲ得ナ
イカト考ヘテ居リマス、併シ造船ノ保護獎
勵ハ單ニソレノミナラバ、ソレガ目的デハ
アリマセヌケレドモ、保護獎勵ニナルノハ
御承知ノ通り遠洋航路補助法ニ依ル所ノ船
ト、又遠洋航路デナクトモ皆内地製造ノ船
ニセヨト云フヤウナコトヲ遞信省デハ内命
ヲシテ居リマスカラ、是モ餘程造船業ノ方
ニハ保護獎勵ニナッテ居リマス、ソレデ船主
ノ側、即チ船ヲ有ッテ居ル人ノ考カラ言ヒ

方デアッテ他ニ獎勵ノ方法ガナクバ造船
業ニ對シテハ、其材料ニ對シテハ戻稅ヲス
ルト云フコトニナッテ居リマスルケレドモ、
ソレヲ加ヘマシテモ總噸數一噸十五圓ト云
フヤウナコトニナリマスト云フト、戻稅ヲ
加ヘテモ一割程度ノモノニナリハシナイカ
ト考ヘテ居リマス、此十五圓ト云フヤウナ
コトハ、確カスウ云フコトカラ出發シテ居
ルノデナイカト私ノ推測デアリマスガ、此
稅率ハ明治四十三年ニ變テ、其頃ノ總噸數
每噸十五圓ト云フコトニ御決メニナッタル
ハ其頃ノ船價デ言ヘバ是ガ一割カ、或ハ一
割少シ上ノモノデアッタルヲ思ヒマス、併
ナガラ現在ノ進歩シタ程度カラ申シマス
トドウデアアルカト云フト、船價ガ高クナッ
テ居リマス、總噸數ニ於キマシテ少シク優
秀ナ荷物船デアアルト一噸三百圓位スルノデ
ナイカト思ヒマス、二百乃至三百圓位ノ所
モノデナカラウカト思ヒマス、サウ致シマ
スト云フト、十五圓ノ稅率デアッテハ、戻稅
ガ幾ラカアッテモ、此稅率ハ非常ニ低イモ
ノニシカナラナイノデアリマス、而シテ造
船業ハ御承知ノ通りニ：：船齡ト云フモノ
ハ御承知ノ通りニ澤山ナ加工品ヲ必要トス
ルノデアリマスガ、ソレ等ノ構成品ノ各々
ハ一部分ハ今回ノ稅率ノ改正ニ依テ更定サ
レテ居ルノデアリマスガ、船舶造船業者ハ
益々苦シ目ニ遇フヤウニ想像サレルノデ
アリマス、其所デ遞信大臣ニ伺ヒタイノハ
獎勵ハ斯ウナッテ居ルトスレバ他ニ何カ御
獎勵ノ途ヲ御講ジニナルノデアアルカ、此
ニナッテ居ルノデアアルカ、此儘ニナッテ置
クナラバ果シテ造船業ト云フモノハ日本帝
國內ニ於テ將來：：完全ニ是マデ折角立派
ニ發達シタ造船業ト云フモノガ、從來ノ通
リ、又世界ノ趨勢ニ遅レザル如ク、進歩ス
ルカト云フコトヲ懸念シマスガ、其點ニ付

マスト、新シイ船ハ極端ニ五圓ニデモシテ
吳レト云フヤウナ希望デアリマスガ、此處
ハ通信省トシテ考ヘネバナラヌコトハ、私
ハ日本ノ海運政策、是ハ此四面廻スニ海ヲ
有テ居ル所ノ我が國トシテハ、海運政策ヲ
執ルト云フコトガ最も必要デハナイカ、其
意味カラ言ヒマス、成ルベク船ノ價ヲ安
クセヌヤウニスル必要ガアリハセヌカ、又
各國ノ例ヲ御調ヘニナツテ居リマセウガ、
私ノ調ヘマシタ所デハ何處モ此船ノ關稅ト
云フモノハ稅ヲ掛ケテ居ナイ、唯伊太利ガ
少シ輕微ノ稅ヲ掛ケテ居テ、外ハ遊覽船
カ何カハ特別デアリマスガ、其外ノ船ニハ
關稅ヲ掛ケテ居ナイヤウニ調ベタ結果ニ
ナツテ居リマス、ソレデ此内地ノ造船業ノ
保護ノ爲ニ關稅ノ堤防ヲ高クシテ、外國製
造ノ船ヲ入レヌヤウニスルト云フコトハ、
日本ノ海運政策ヲ活潑ニスル方ノ意味カラ
餘程考慮ヲ要スル、其方カラ考ヘマス、
關稅ハサウ禁止的ニ高クセズニ置イテ、サウ
シテ此海運政策ヲ十分ニ發展ヲ圖ルト云フ
コトガ必要デハナカラウカト云フ考ヘカ
ラ、ソレデ双方ノ意見、即チ船主ノ方ノ意
見モ、又造船業者、造船協會側ノ意見モ參
酌イタシマシテ、サウシテ茲ニドウ云フ程
度ガ宜シカラウカト斯ウ云フコトヲ考ヘタ
ノデアリマス、尤モ右船ノイテナイコトモ
十分承知イタシテ居リマシテ、老朽船ノ不
經濟ナルコト、速力ノ上ニ於テモ、ソレカ
ラ石炭ノ燃料ノ消費ニ於テモ、ソレカラ航
海日數ノ上カラ、ドノ點カラ考ヘテモ古イ
船ガ詰ラナイ、殊ニ修繕費ガカ、ルトカ、
或ハ難破スル率ガ高イトカ、サウ云フコト
モ承知イタシテ居リマスガ、此海運ヲ盛ン
ナラシムル方カラ考ヘルト、悉ク十年カ十
五年ノヤウナ船ハ排斥シテ仕舞フト云フコ
トハ日本ノ海運業ノ方カラ云ウテ餘程考慮

ヲ要スルコトと思フ、丁度古船ト申シマシ
テモ、十年カ十五年ニナルト船價ガ非常ニ
安クナツテ來ル、モウ船價ノ六割位ハ入ッテ
仕舞テ居リマスカラ、非常ニ價ガ安イ、ソ
レデ日本人ノ今日ノ財政狀態カラ見レバ、
其位ノ程度ノ船ハ所謂使ヒ頃デアツテ、船主
トシテハ非常ニ算盤ガ引合フト云フヤウナ
考ヘテ起スグラウト思ヒマスガ、ソレヲ悉
ク防ギ止メテ仕舞フト云フコトモ宜シクナ
カラウト、斯ウ云フ考ヘデ、ソレデ二十年
未滿ノモノハ十五圓ト致シテ置キマシテ、
ソレデ斯ウナツテ來ルト古船ガドシト、這
入ッテ來ルト云フ御懸念モアリマステレド
モ、サウハ見テ居リマセヌ、是マデハ古船
ガ澤山人ノ御承知ノ通り大連方面ニ
アンナ無稅ナモノガ出來テ、アソコニ缺陷
ガアツタ爲ニ澤山入ッテ居リマス、其方ハ御
承知ノ通り防ギ止メテアリマスカラ、ソレ
デ二十年以上ノ老朽ノ古船ガドシト、私ハ
入ッテ來ヤウトハ考ヘテ居ラナイノデアリ
マス、大分研究ノ結果、此海運ノ大イニ活
躍ヲ圖ル意味カラ考ヘルト、船主ノ意思モ
大イニ尊重シテ、サウシテ此關稅ノ率ヲ高
メナケレバナラヌト、斯ウ云フ考ヘカラ改
正案ヲ作ツタ次第デアリマス、ソレデ曩ニ申
シマシタヤウナ船材ニ用ユル所ノ鐵鋼材ヲ
免除スルトカ、或ハ鐵製品ノ内地デ出來ナ
イ物ヲ免除スルトカト云フヤウナコトバカ
リデ、是デ造船ノ保護獎勵ハ足レリトハ申
シマセヌ、是ハ全ク別問題デアリマシテ、
此關稅ヲ高クシテ、船ヲ輸入セズニ内地ノ
造船業ヲ保護スルト云フ方針ハ執リマセヌ
デ、日本ノ造船業ハ別ニ他ノ即チ獎勵方法
ヲ考慮イタシマシテ、サウシテ今一層ヨリ
良クシタイト云フ考ヘテ持ッテ居リマスガ、
唯我國ノ財政狀態ガ御承知ノ通りノ有様デ
スカラ、直チニ是ガ實行スルト云フコトモ

困難ナル爲ニ、今年ノ豫算ヲ作リマシタ頃
モ有體ニ申上ゲマス、通信省内ダケデハ
其邊ノコトモ研究イタシマシタケレドモ、
先ゾ何ヨリモ航路ノ方ニ力ヲ入レルノガ今
日デハ必要ダト云フコトカラ、此造船獎勵
ニ關スル所ノ方ハ調査研究シテ居リマシ
テ、案ヲ具シテ出スヤウナコトニハ行カナ
カッタ次第デアリマス、確カニ其方モ考慮イ
タシテ居ルト云フコトダケハ申上ゲテ置キ
マス
○男爵斯波忠三郎君 唯今大臣ノ御答ヲ得
タノデアリマスガ、此海運界ヲシテ十分活
躍セシムルノハ所謂中古位ナ船ヲ入レルノ
モ宜カラウト申サレタノデアリマス、ソレ
ハマアサウ云フコトモ、或ハアルカモ知レ
マセヌガ、ソレ以上ノ二十年ヲ超エタ船ト
云フト、先程内藤君モ云ハレタヤウニ、二
十年以上モ經テ船ハ非常ニ修繕ヲ要シ、
又經濟的ノ上カラ言フテモ非常ニ劣等ナモ
ノト現在ノ狀態デハナリマスノデ、ソレニ
モ拘ラズ、從來大連ニ於テハ船ハ無料デア
ルト云フ隨分サウ云フ如何ハシイ船ガアリ
マシタガ、成ル程此道ハ唯今通信大臣ノ御
述ベニナリマシタ如クナクナツタノデアリ
マスケレドモ、ソレデモ尙ホ矢張り古イ二
十年乃至三十年位ノ船ガ入リツ、アルヤウ
ニ私ハ承知シテ居ルノデアリマス、海運界
ノ活躍ト云フコトニ對シテハ量ヨリモ質デ
アルト云フコトガ第一デヤナカラウカト思
フノデアリマス、唯噸數ダケ多ク買ツテモ、
例ヘバ日本ノ海運界デ申セバ噸數アレバ
世界三番目デアルト云テ居リマスケレド
モ、老朽船ガ多イノデアリマス、其結果難
破船ノ統計ノ多イコトハ日本ガ第一等デア
ル、是ハモウ爭ハレナイ事實デアル、唯今
コソ世界ノ海運界ハ比較的大規模ニナツテ、
段々忙シクナルト云フヤウナ曙光モアルヤ

ウナコトデアルガ、將來世界ノ海運界ガ活
動シタ曉キヲ考ヘマス、果シテ日本
ニ現存シテ居ルヤウナ所謂老朽船ヲ以テ各
國トノ間ノ競争ニ打勝テルモノデアルカ否
ヤト云フコトヲ考ヘテ見マス、ソレト、海
運國トシテハ頗ル遺憾ナ點ガ少クナイノデ
アリマス、デアリマスルカラ、此際我國ノ
國策トシテ量ヨリモ質ヲ改良スルト云フコ
トニ留意サレタ方ガ、我國ノ將來ノ海運界
ノ爲ニ非常ニ結構ナコトデハナカラウカ
ト、斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、考ヘル
ノデアリマスカラ、先程ノヤウナ御質問ヲ
申上ゲタノデアリマス、造船業ニ對シテ大
臣ノ御考ヘハ關稅以外ノ方法デ獎勵助長ヲ
スルンダト、斯ウ云フヤウナコトニ私ハ拜
聽イタシマシタガ、ソレモ結構ナコトダ
ウト思ヒマスガ、併シ今ノ儘デ打ツチャツ
御置キニナリマス、ソレト、折角是マデ造
船業ニ注ギ込シタ資本ガドレ位デアリマス
知ラヌガ、或ル人ハ二億五千萬圓ト云ヒ、
或ハ三億ト云フ、先ヅ少カラザル資本ガ注
入セラレテ居ル、此大規模ノ造船業ハ又一
方社會政策ノ上カラ云フテモ職工ヲ多數使
フ工業デアリマス、此工業ノ盛衰ト云フコ
トハ單ニ船舶ノ造ラレルト云フコトヨリ、
尙ホ延イテ大キナ社會問題ト云フヤウナモ
ノヲ背景ニ持ッテ居ルノデアリマス、又國
是トシテモ船舶製造ト云フコトハ必要ナコ
トノヤウニ思ヒマスカラ、併シ關稅モ今ノ
通りデアル、サウシテ關稅救フコトハ一
方船主ノ方ノ側ニ不利益デアルト云フコト
ナラバ、他ニ何カ然ルベク助長策ヲ御講ジ
ニナラヌト云フト、折角發達シタ所ノ造船
業ナルモノガ全滅ト云フヤウナ弊ガアルカ
モ知レマセヌケレドモ、非常ニ衰微ヲ來ス
ト云フコトニナリハシナイカト斯ウ思フノ
デアリマス、成ル程經費モ無クスルンダカ

ラシテ、急ニ獎勵法ト云フモノガ考ヘラレ
ナイトシテモ、此儘デ打ッテヤ、御置キニ
ナッタナラバ、其結果ハ如何ナモノデア
カト云フコトヲ憂慮シマシタガ爲ニ御伺
マシタノデアリマスガ、ソレニ付テハマ
何モ造船ノ獎勵法ニ付テハ具體的ノ御案
ナイヤウデアリマスアレドモ、是ハ成ルベ
ク早イ時期ニ於テ御考慮シテ下サル點ガ
リハシナイカト、斯ウ考ヘラル、ノデア
マスガ、其見地ヲ以テ私ハ御質問ヲシタ
デアリマス、將來前ニ發布ニナツタ所ノ
船獎勵法ノ如キモノヲ御ヤリニナルカ、
ハ航海獎勵、遠洋航海獎勵ト云フヤウナ
トモ、モット今ヨリ以上ニ航路ノ擴張デ
御ヤリニナツテ、其航路ニ使フ船ハ必ズ
本製造船舶タルベシト云フヤウナコトヲ
ヤリニナルカ、何カ大臣ノ御確定ニナ
マデモ大體ノ斯ウモシヤウカ、ア、モシ
ウカト云フ大體ノ御意思ノアル所ヲ伺
トガ出來レバ大變仕合セデアリマス

○國務大臣(安達謙藏君) 斯波男爵ノ御説

ハ大體ニ於テ御九デアリマス、其船ノコ
ハ先刻申シマシタヤウナ狀態デアリシ、
度ノ改正率デモ沿々トシテ古イ船ノ老朽
バカリ這入ッテ來ヤウトハ遞信省ハ考ヘ
セヌ、ソレカラ造船ノ獎勵ノコトハ此關
以外ニ於テ考慮イタスコト、致シタイト
ヘテ居リマス、其方法ニ付キマシテハ茲
具體的ニ申上ダルマデニ進ンデ居リマ
ヌ、唯今御話ニナツタヤウナ方法ニ付テ
究スル外ハナカラウト考ヘテ居リマス、
是カラ能ク調査研究ヲシテ見ル積リデ居
リマス

○内田嘉吉君 唯今ノ御尋ニ遞信大臣ノ御
答ガアリマシテ、ソレニ付テ私モ御尋ヲ
テ見タイト思フノデアリマス、私ハ二三
點ニ付テ御尋シタイト思ヒマス、即チ第

ハ關稅定率法第十條ノ造船材料ニ關シマ
シテ、免稅ノ點デアリマス、之ニ付テ少
御伺ヲシテ見タイト考ヘマスガ、幸ニ遞
大臣モ御氣附ガゴザイマシテ、此免稅ノ
條ダケデハ造船事業ヲ獎勵スルノ不
分デアルト云フ御考ヲ御持チニナツテ
ニナル、私モ實ハソレト全ク同一ノ考
持ッテ居リマス、最近ニ輸入ニナリマ
船ノ數ハ、大正十年カラ最近マデニ於
シテ、内地ニ輸入イタシマシタ船ガ約
二萬噸バカリデアッタト思ヒマス、而
其外ニ大連方面ニ輸入イタシマシタ船
二十五萬噸バカリデアリマシテ、其外ノ
カラ新造ノ注文ヲ取寄セタ船ガ四五
噸デアリマスノデ、總計イタシマス
年以來約八十萬噸ヲ超過シテ居リマス
之ニ反シテ我國製造ノ船ハ僅ニ二十
五萬噸ニ足ラヌヤウナ極數デ記憶シ
居ルノデアリマスガ、若シ現在ノ造船
免稅ダケデ足リルト云フコトデアレバ、
ナル著シイ差ハ生ゼズシテ、少クモ内
造船舶ト外國造船舶ト平均ヲ得ル位
コトニナリハシナイカト考ヘマス、即
稅定率法第十條ニ定メタル規定ダケ
我國ノ造船ヲ獎勵スルノハ不十分デ
ト云フコトハ、唯今申上ダマシタ數
ガ出來ヤウト思フノデアリマス、即チ
ラ這入ッテ來ル船ハ日本ノ船ノ約三
シ以上ニナツテ居ル位デアリマス、
ノ輸入ニ付キマシテハ後デ愚見ヲ申
教ヲ仰ギタイト思ヒマスガ、サウ云
アリマスカラ此免稅ダケハ不十分
ト云フコトガ明カデアリマス、曾テ
ガ貴族院ノ會議ニ附セラレマシタ
私ハ當時ノ遞信大臣デアラレタ野田
君ニ質問ヲ致シマシタ所ガ、左様
サレテハ困ルト云フ、何カ御答辯

ニナラヌ
ヤウナ御話デ、滿場ガ洪笑シテ其儘
テシマッタヤウナコトガアルノデ、
ガ果シテドウ云フコトデアッタカ、
ヲシナイデ列席ノ各員ガ大笑ヲサ
ガアッタノデアリマス、併シソレモ
免ニ角答トシテハ洵ニ巧妙ナ答カ
セヌガ、併シ政務ヲ執ル上カラ考
ダ私ハ感服ヲシナカッタノデアリ
ナガラ私ハ造船獎勵、航海獎勵ト
トニ付テハ多少研究ヲ致シタモノ
スカラ、自分ノ是ニ關スル緣故ガ
ノデ、果シテ左様ニ考ヘタモノ
ウカトモ思ヒマシテ、實ハ其後ノ
テ居リマシタ所ガ、大正十年マデ
戰爭ノ結果ト致シマシテ、日本ノ
常ニ進ンデ参リマシテ、ソレガ爲
ラ船ヲ買フ必要モナカッタ位デア
果シテ大正十年日本ノ海運界ノ
ニ歸シテカラ後ニ於テハ俄然外國
レル傾向ガ多クナツタノデ、要ス
ノ造船業ハソレガ爲ニ萎靡振ハズ
ハ非常ナ勢ヲ以テ進ンダ此造船
頃カラ火ノ消エタヤウニ靜ニナ
何レノ造船所モ配當ガ出來ヌノ
フヤウナ狀態、而モ尙ホ之ニ加
ノ艦艇ノ製造ヲ政府カラ命ゼラ
タノガ、海軍軍縮ノ結果トシテ
ナツタト云フコトモ、併セテ造
ナル打撃ヲ與ヘル結果ヲ見マシ
ニ對シテハ相當ノ政府カラ賠償
ト云フヤウナ案ガ出タトカ、或ハ
モ聞キ及ンデ居リマス、左様ナ
於テ造船家ノ日本ノ現狀ヲ救済
スト云フト、一二或ハ多クシテ
船所ノ存在ヲ見ルノ外ハ、即チ
テ云フト是等ノ造船所ガ他ノ工
ル、爲ニ繼續シテ居ルノデアリ

マスガ、其
他ノ造船所ト云フモノハ殆ド滅亡
ト云フコトニナリハセヌカト思
マス、隨分日清戰爭ノ後ニ造船
マシテ、船海事業ニ對スル共ニ
相當ノ巨額ノ金ヲ出シテ茲マデ
タ事業ガ、此狀態デ行ケバマル
シテシマフト云フ結果デアラウ
ス、此造船事業ニ付キマシテハ
ヲ用ヒテ戴キタイ、即チ關稅
規定ノ如キモノデハ極メテ不
不十分デアルト云フコトニ能ク
タイト思ヒマス、幸ニシテ、
ガ此邊ニ付テ御考慮ヲ爲シ下
トデアリマスノデ、之ニ付キマ
言葉ノ實現セラレル適當ナル
スル法案ヲ成ルベク早ク御提
コトヲ希望スルノデアリマス、
ニハ此船舶ノ輸入ノ關稅デア
入ノ關稅ノコトモ沿革ヲ申述
餘リ精クハ長クナリマスノデ
スガ、元ハ從價稅デアリマシ
從價稅ノ一割ト云フコトニナ
タガ、其古イ船モ新シイ船モ
從價稅一割デアリマス、斯ウ
イ船ハ船價ガ非常ニ安い、新
ガ高い、從ヒマシテ新シイ船
稅ヲ課シテ古イ船ニハ極メテ
ト云フコトデアッタノデ、此
ト是ハ洵ニ當ヲ得ナイノデ、
正ノ時ニ總噸數ニ付テ課稅
トニナツテ、此時ニ私共ハ此
ナルコトヲ希望スル意見ヲ有
アリマシタガ、此時ノ結果ハ
マスル通り總噸數一噸毎ニ
年ヲ超エザルモノ、ソレカラ
八十圓、餘リ從前ノ、四十
ト結果ニ於テ非常ナル差ノ生

ズルコトヲ
他ノ造船所ト云フモノハ殆ド滅亡ニ歸スル
ト云フコトニナリハセヌカト思フノデアリ
マス、隨分日清戰爭ノ後ニ造船事業ニ對シ
マシテ、船海事業ニ對スル共ニ政府カラ
相當ノ巨額ノ金ヲ出シテ茲マデ養成シ來
タ事業ガ、此狀態デ行ケバマルデ衰亡ニ歸
シテシマフト云フ結果デアラウト思ヒマ
ス、此造船事業ニ付キマシテハ特ニ御配慮
ヲ用ヒテ戴キタイ、即チ關稅定率法十條ノ
規定ノ如キモノデハ極メテ不完全デア
不十分デアルト云フコトニ能ク御了解ヲ得
タイト思ヒマス、幸ニシテ、唯今遞信大臣
ガ此邊ニ付テ御考慮ヲ爲シ下サルト云フ
トデアリマスノデ、之ニ付キマシテハ其御
言葉ノ實現セラレル適當ナル造船獎勵ニ關
スル法案ヲ成ルベク早ク御提案ニ相成ラム
コトヲ希望スルノデアリマス、ソレカラ次
ニハ此船舶ノ輸入ノ關稅デアリマシテ、輸
入ノ關稅ノコトモ沿革ヲ申述マスト云フト
餘リ精クハ長クナリマスノデ略シテ申シマ
スガ、元ハ從價稅デアリマシテ、サウシテ
從價稅ノ一割ト云フコトニナツテ居リマシ
タガ、其古イ船モ新シイ船モ同一ノ一割、
從價稅一割デアリマス、斯ウ致シマスト古
イ船ハ船價ガ非常ニ安い、新シイ船ハ割合
ガ高い、從ヒマシテ新シイ船ニハ餘リ高
稅ヲ課シテ古イ船ニハ極メテ安い稅ヲ課ス
ト云フコトデアッタノデ、此沿革カラ云フ
ト是ハ洵ニ當ヲ得ナイノデ、四十三
正ノ時ニ總噸數ニ付テ課稅スルト云フ
トニナツテ、此時ニ私共ハ此稅ノ額ノ同
ナルコトヲ希望スル意見ヲ有ッテ居
アリマシタガ、此時ノ結果ハ現行法ニア
マスル通り總噸數一噸毎ニ二十五圓、
年ヲ超エザルモノ、ソレカラ其以上ノ
八十圓、餘リ從前ノ、四十三年以前ノ
ト結果ニ於テ非常ナル差ノ生ズルコトヲ

レテ幾分緩和スル爲メニ總噸數ニシテ十五圓、十圓ト云フ二種類ニ分タノデアリマス、併シ是ハ造船ノ關係ノミナラズ、海運獎勵ノ上カラ言フト、餘リ適當デハナイヤウニ思フテ其當時以來思フテ居タルデアリマス、只今色々斯波男爵カラモ御意見ガアリ、通信大臣カラ御意見モアッタコトデアリマスルガ、要スルニ我々ハ其當時以來考ヘテ居リマシタルハ是ハ寧ロ同率ニシテラ宜カラウ、即チ古イ船モ、新シイ船モ一ツノ率デ、進ンダ方ガ宜カラウト云フ考ヲ有テ居リマシタ、併シ尙ホ古イ船ヲ防グト云フ上カラ言ヘバ古イ船ニ高イ稅ヲ課スルト云フコトモ一ツノ方法デアリマス、即チ今回ハ政府ノ御提案トシテ船齡二十年ヲ超エザルモノ一噸十五圓、其他ノモノハ一噸二十圓ト云フコトニ爲サタノデ、二十年以上ノモノガ高クナッタト云フコトハ、是ハ古イ船ニ對シテハ極ク最初ノ關稅定率法ノ趣旨カラ見レバ、非常ニ重クナッタノデアル、又最近ニ四十二年ニ變リマシタ關稅定率法カラ見テモ重クナッタノデアルカラシテ、即チ私共ガ考ヘテ居ルヨリモ古イ船ヲ俗ニ言フ大事ニスルト云フ意味カラ言フノニハ結構ナ案ダラウト思フノデス、唯私ハ今回ノ御提案ニ對シテ遺憾ニ感ジマスノハ、從前定率法デハ十年ヲ超エザルモノト云フコトデ區別シテアルノヲ、ソレヲ同ジ金額デ二十年ヲ超エザルモノ迄延バシタ、即チ十年ノ船齡ヲ延バシテ同ジ率ニサレタト云フ點デアラウト思フノデアリマス、政府委員モ衆議院ノ方デ、委員會カ何カデ御説明ニナリ、唯今モ通信大臣ガ御説明ニナリマシタガ、十五六ノ船ガ使ヒ宜イノデアルト云フ御言葉デアリマシタガ、是ハ私ハ聊カ實際ト違フテ居リハセヌカト思フノデアリマス、船ハ新シイ程使ヒ宜イ譯デアリ

マス、或ル物ニ依テハ何年間カ使ヒ古シナカラ後ガ使ヒ宜イト云フコトモアリマサルガ、船ノ如キモノハ新シイ程結構ナノデアル、故ニ外國デハ新シイ船ヲ造テサウシテ古イ船ヲ割合ニ安ク外國ニ賣テ自國ノ海運ヲ盛ニスルト云フコトヲ努メテ居リマスノデ、其外國デ使ヒ古シタ船ヲ日本デ買テサウシテ我國ノ海運ガ盛ニナレリト云テモ、餘リ自慢ニナラヌヤウニ思ヒマスル現在「ロイド」ノ造船表ニ依リマシテ年齡ヲ調ベテ見タコトガアッタ、私ハ數字ハ持つテ居リマセヌガ、英吉利、亞米利加ノ船ハ十年未滿ノ平均ニナッテ居リマス、其外獨逸ナドモ近頃船ハ減リマシタケレドモ矢張り平均シテ十年未滿デアル、日本ハ十年前後ニ平均ガナッテ居テ二十年カラ以上ノ船モ相當ニ多イノデアリマス、其他海運國ト稱セラレナイ國ニデハ相當ニ平均年齡ノ古イ船ヲ持つテ居リマスガ、海運國ナリト云フ中ノ屈指ノ國ノ船ハ皆十年以內ニナッテ居リマス、ソレ等ノ例證ニ依リマシテモ、必ラズシモ十五年ノ船ガ使ヒ宜イト云フコトハ事實ニ於テアリ能ハヌコトデアラウト思フノデアリマス、是ハ寧ロ十年未滿トシテ御置キニナッテ、サウシテ後二十年未滿トシタ方ガ宜カラウト思フノデアリマス、造船業者ト海運業者ト間ニ意見ノ相違ガアリマスルケレドモ、ソレハ海運業者ト雖モ決シテ十五年ノ船ガ宜イカラト云テモ態買フノデハナイ、新シイ船ガ惡イカラト云テ買ハナイノデハナイ、要スルニ造船ヲスルノニ新造船デハ金ガ掛カルノデ安クシタイト云フ結果カラ起ルノデアリマシテ、玆ニ岡崎藤吉君ノ如キ多年此船ニ從事ニナッテ居ル方モアリマスカラ御實驗モアラウト思フ、私共ガ船主デ知ッテ居ル人も多少アリマスノデ、其方々ノ意見

ヲ聞キマスノニ、サウ云フヤウナ事實カラ起ッテ來ルノデアリマス、是ハドウシテモ其新シイ船ヲ比較ノ便利ニ買ヒ得ルヤウニシテ、古イ船ハ割合ニ負擔ガ重クナルト云フコトニスルト云フコトハ理論ノ立場カラ結構デアリマス、併ナガラ日本デハ新シイ船ヲ造ルト云フコトハ相當ニ負擔モ掛カルコトデアリマスカラ、唯今希望ヲ申述ベテ、通信大臣ノ其御意見ノアル所ノ日本ノ造船獎勵ヲ十分ニ努メラル、コトニシテ日本ノ船ヲ殖ヤシチ行クコトニシタイト思フノデアリマス、日本ノ船ガ幾噸アレバ果シテ十分デアルカ、是ハ際限ノナイ話デ益辯ズルカモ知レマセヌガ、併シ世界ノ今日ノ海運業ノ全體カラ見マスト云フコト餘リニ多ク船ヲ持つテ居ルト云フコトモ大イニ考慮シナケレバナラヌノデアリマス、國防ノ上カラ海軍ナリ、陸軍ナリノ關係カラ適當ナ噸數ノ船モ入用デアルシ、又平素ニ於ケル所謂商業ノ關係カラ適當ナ噸數モ入用デアリマスガ、今日四五百万噸ノ船ヲ持つツト云フコトハ相當ノ立派ナ海運國デアリマスノデ、寧ロ私ハ先程斯波男爵カラモ御話ノアリマシタヤウニ、量ヲ此以上ニ殖ヤシテ古イ船ヲ買ハセルト云フコトハ必要ガナイノデ、寧ロ之カラ先キハ質ニ於テ改善ヲサル、ト云フコトガ必要トアラウト思ヒマスノデ、私ハ寧ロ二十年ヲ超エザルト云フコトハ元ノヤウ二十年ヲ超エザルモノト云フコトニシタ方ガ適當デナイカト思ヒマスノデ、又其率モモウ少シ之ヲ設ケラレテモ宜イ位デアリマスガ、是ハ假リニ原案ニアル通りデモ宜イト思ヒマスノデ、私ハ一ツ通信大臣ニ此二十年未滿ト云フノ現行定率法ノヤウ二十年ニ御改メニナルト云フコトハ如何デアリマセウ、其邊ノ御意見ヲ伺ヒタイノデゴザイマス

○國務大臣(安達謙藏君) 大體ノ御意見ハ能ク拜聽イタシテ居リマシタガ、今ノ二十年ト云フコトニシマシタルハ、ソレハ色々省內ニモサウ云フ話ガアリマシタガ、最初御話シマシタ通りサウ關稅ヲ高クシテサウシテ船舶ヲ輸入スルコトヲ禁ズルヤウナコトハ採ラヌガ宜イト云フコトニ結論ガナッタノデアリマス、二十年迄ニ制限シタノデアリマスガ、敢テ古イ船ガ宜イト云フヤウナ意味ハ少シモ持チマセヌ、是ハ最初研究イタシマス時ニモ矢張り老朽船ガ今迄ノヤウニ這入ッテモ困ル、老朽船ガ這入ラナイヤウニシヤウト云フコトヲ專ラ調査シタノデアリマス、併ナガラ先キニ御話シタ通り、全然ソレヲハレナイヤウニスルト云フコトハ餘リニ無理デハナカラウカ、ソレハ海運政策ノ上カラ考ヘルト二十年位ニシテ置イタガ、丁度穩當タト云フコトカラ十年以上ノモノハ二十圓ト高クシタ、ソレデカラ丁度造船協會ノ希望ハ二十二圓五十錢、古船デモ新造デモ要スルニ二十二圓五十錢、造船協會ノ意見ト僅カニ二圓五十錢外差ハナイ、二十年以上ノモノハ：：船主側ノ希望ノ十年未滿ハ五圓ト云フノハ是ハ餘リニ輕スギルト云フコトデ、ソレデ矢張り現行法ノ十五圓ニ止メ、其上二十年トシマシタカラ是ハ二十年未滿ノ船ニ於テハ五割ノ増稅ニナッテ居リマス、其程度デサウ、澤山古イ船ガ這入ッテ來ルヤウナ懸念ハナカラウ、斯ウ云フ考カラ來タノデゴザイマス

○内田嘉吉君 其御説明ハ拜承イタシマシタガ、私共同志ト共ニ通信省ニモ建議ヲ致シマシタガ、是ハ二十圓ニシタイト云フ意見デアリマス、其コトハ偶、此古イ方ノ船ニ對シテハ同一ノ二十圓ト云フモノヲ御用

ヒニナツテ居リマスガ、私ハソレニ對シテ

ハ同志ノ意見ト同様デアリマスカラソレハ宜シウゴザイマスガ、唯自分：自分等ノ考ト違ヒマスルノハ、此船齡二十年ヲ超エザルト云フ點デアリマスノデ、私共ハ決シテ日本ノ造船ノミニ依ルト云フコトヲ船主ニ強フルコトハ酷デアルト云フコトヲ了承ヲ致スノデアリマス、唯現在ノ事情カラシテ十五六年カラ以上ノ船ガ多イ、即チ第一回ノ修繕ヲ加ヘタ船ガ多イ、申上タルノモ失禮デアリマスガ、船齡トシテ十二年ニナリマスレバ大修繕ヲ致シ、又更ニ十二年ヲ經テバ、大修繕ヲスルノデアリマス、大修繕ヲシタ後ト云フ船ガ多イノデアリマス、自然ニ難破等ノ場合ニモ相當ニ船ノ痛ミガ多イト云フコトハ止ムヲ得ナイ結果デアリマス、若シ此二十年ヲ假リ二十年ト其他ト云フ風ニ二ツニ分ケマスト云フト、比較的年ノ方ガ輕クナリマシテ、十年カラ以上ノ船ニ負擔ガ重クナリマスカラシテ、今日幸ヒ二十五年ノ船ヲ買フト云フコトハ幾ラカ防グコトガ出來テ、少シ注意スレバ新シイ船ヲ買フト云フコトニナルカト思フノデアリマス、要スルニ御話シニナツタコトハ一番此割合ガ廉イト云フノ外ナラス、決シテ此點ニ付テ便利ガ多イト云フ譯ニハイカヌ、新造船デアレバ保險料モ廉イ、備船料モ割合ニ餘計取レル、荷物モ餘計取レル、斯ウ云フ、マア便利ガアリマス、船主ノ經濟ガ許スナラバ、新シイ船ヲ買フ、日本デ造船獎勵法ガアレバ作ラヌ、又外國カラシテモ新シイ船ヲ買フドラウト思ヒマス、其點ヲ向ホ御考慮ヲ請ヘバ、中ニ二十年或ハ十二年ト云フ區別モ適當デアルカモ知レマセヌガ、ソレマデノ船ハ現在ノ通りニ區別ヲシタ方ガ適當デヤナイカト思ヒマス、御考ヲ向ホ更ニ願フコトハ出來ナイモ

ノデアリマセウカ

○國務大臣(安達謙藏君) 遞信省トシテハ再三再四、是ハ研究イタシマシテ、船主ノ方ニモ無理ノ行カナイヤウニ考慮シ、又矢張り造船側ノ方ニモ相當ナル同情ヲ持ツテ、併シ造船側ノ方ハ協會側ノ方ノ希望ヲ皆滿タスコトハ出來マセヌデシタガ、其獎勵ハ先刻申上デマシタ他ノ方法ヲ考慮シヤウト云フコトト相並ンデ行クベキモノト、斯ウ考ヘテ居リマス、唯造船ノ方ハ、造船獎勵ノコトハ外ノ問題モアルシ、例ヘバ例ヲ申シマスト、航空路ノ問題ノ如キ、矢張り海ノ航路ニ空ノ航路、ト同ジコトデアリマスカ、色ミノコトヲ比較研究シテ見ルト、彼是ザウ云フヤウナモノガ往々アルノデアリマスカラ、我國ノ今日ノ經濟狀態デハ意ノ如クナラヌト云フコトハ各方面ニアリマス、ソレデ船ノ比較の中古ノ船、ソレノ輸入ヲ止メテシマウヤウナ態度ヲ執ルト云フコトハ、是ハ日本ノ海運政策、海運業ノ獎勵ニ少シク慘酷ダ、斯ウ云フ考カラ二十年未滿ト云フモノハ十五圓ニシテ、ソコノ區劃ヲ立テタ次第デアリマシテ他ニ意味ハアリマセヌ

○内田嘉吉君 モウ一言チヨット其御答ニ對シマシテ、御考ヲ煩シタイト思フノデ、申上デマスガ、十年以前ノ船ト十年以後ノ船ト即チ、十二年ヲ經過シタモノトノ間ニハ、相當ニ船價ニ開キノアルコトハ無論御承知ノ通りデアリマスノデ、恐ラクハ五圓ノ差ガ更ニソコニ加ハリマシテ、ソレヲ買フト云フコトヲ希望ナサル船主カラ云フト、餘リ著シイ船主ニ對スル負擔ヲ増スモノデハナイ、即チ船價ガ非常ニ下ガルノデアリマスカラ、ソレデ之ヲ一列ニシテ置イタガ爲ニ、ドウ云フ結果ガ起ルカト云フト、新造船ヲナルベク買ヒタイト云フ人ニ向ッテ

便利ヲ與ヘル、中古ノ船ヲ買ハフト云フ考

ノ人ニハ餘リ不便ヲ與ヘナイコトニナルノデ、寧ロ斯ウシテ置ケバ勿論古イ船ヲ買フトコトヲ好マヌトシテモ自然ニ二十年前ノ、二十年近イ船ヲ買フ人ガ一層殖エテ來ルト云フ結果ニナリハセヌカト思フノデアリマス、是ハ或ハ見解ノ相違、見込違ヒト云フコトニナルカモ知レマセヌガ、私ハ其事ハ御聞キ置キヲ願ヒマシテ質問ハ是デ打切りマス、

○國務大臣(安達謙藏君) 船ノコトハ私ヨリハ貴方ノ方ガ餘程御詳シイガ、私素人デアリナガラ是ハ此案ヲ作ル時、大分疑問ヲ發シマシテ、研究ヲシマシタガ、管船局デ研究ノ結果此程度ニシタラ、ドシ〜サウ古イ船モ這入ッテ來マイ、ソレカラマタ船主ノ方デモサウ引合ハナイ、ソンカラ修繕費モ非常ニ高ク掛カルシ、ソレカラ速力、其他總テノコトニ不經濟デアルカラ古船ヲ買込ンデ來ルト云フコトモ今後ハナカラウ、大連ガ無稅地デアツカラ、アンナ馬鹿ナコトニナツタガ、今後ニ於テハ其方ハ、防ギ止メテアルカラ、サウ云フ變化ハ來ナイ、ソレデ、二十年未滿ハ矢張り十五圓ニシテ置イタガ、今日ノ海運界ノ活躍ヲ圖ルニハ便利デアラウ、斯ウ云フ結論ヲ得タノデアリマス、ソレデ、船主側ノ意向ヲ十分斟酌イタシマシテ、同時ニ造船側ノ方モ御満足ニナルヤウナ、手段方法ヲ講ジタイ、斯ウ云フ希望ヲ持ッテ居リマス

○内田嘉吉君 チヨットモウ一言、大連ノ方デ無稅地デアツカラ古イ船ガ這入ッタ、斯ウ云フ仰セデアリマスガ、無稅地ヘ古イ船ガ這入ルト云フコトハ、寧ロ十五圓ニシテモ、二十圓ニシテモ、差ガナイト云フ結論ニナリハセヌカト思ヒマス、無稅地デアツテモ十五圓デモ這入ルシ、只デモ這入ル、斯

ウ云フ譯デスカラ、稅ガ無カッタナラバ、

新シイ船デモ餘計買入レルカト思フト、サウデナイト云フ結果ニナリマス、大連ノコトハ是ハ今度解決サレマシテ結構デアリマス、色ミノ點ニ付テ日本ノ海運ニ考慮ヲ要スルモノト思フタモノガ解決シタノハ洵ニ結構デアリマス、從來ノ無稅地ニモ矢張り古イ船ガ這入ッテ來タノデアリマス、是ハ唯今ノ仰セヲ少シ裏切ッテ居ル事實デナイカト思ヒマス、モウ是デ止メマス

○政府委員(宮崎清則君) 唯今遞信大臣カラ委細御述ベニナツタ通りデアリマスガ、チヨット私、補充的ニ申上デテ置キタイト思ヒマス、唯今内田サンカラ御尋ネノ英吉利ノ船齡ト日本ノ船齡ノ差デアリマスガ、私今此處ニ精細ナモノヲ持チマセヌガ、日本ノ方ハ御承知ノ通り、十三年ニナツテ居ルト思ヒマス、英吉利ノ方モ此「ロイド」ノ調べ表ニ較ベテ見マスト、五年未滿ノヤツハ相當數ガ多クゴザイマスケレドモ、五年以上十年未滿ノモノハ英吉利ハ全體ノ噸數ニ較ベテ二割四分ト云フヤウニナツテ居リマス、所ガ、日本ノ方ハ全體ノ噸數ニ較ベテ四割一分ト云フヤウニナツテ居リマスノデ、日本ノ方ガ非常ニ成績ガ宜シイノデアリマス、ソレカラ更ニ十年以上十五年未滿ハ英吉利三割、日本ガ非常ニ惡クテ七分ト云フコトニナツテ居リマスガ、十五年以上二十年未滿ハ英吉利ガ一割九分、日本ガ七分、二十年以上二十五年未滿ハ英吉利ガ九分、日本ガ九分、是ハ同様デアリマス、御承知ノ通り英吉利ハ戰時中ニ船ハ造リマセヌノデ、大分船齡モ古クナツテ居リマスノデ、今日デハサウエライ開キガナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ率ヲ年齡二十年デ打切ルト、十年乃至二十年ノモノハ多ク這入リハセヌカト云フ御懸念ガアリマシ

タガ、從來這入ッテ居ルモノモ十年乃至二十年ノモノアリマス、先ヅ最近ノ、大正八年後ノ戰爭後ノ統計ヲ見マスト外國カラ購入イタシマシタモノデ、二十年未滿、二十年以上ノモノガアリマスガ、二十年未滿ノモノガ二十六萬噸、二十年以上ハ三十萬噸見當ニナッテ居リマス、此間ニ外國ニ注文イタシマシタモノガアリマスガ、ソレヲ別トシテ先ヅ外國ノ船ヲ買ッタト云フモハ今申上グルヤウナ具合ニナッテ居リマス、是ハヒトリ最近ノ實況 バカリデハアリマセヌガ、從來ノ例カラ見マシテモ要スルニ日本デハ古船ガ多クテ困ル、或ハ船舶過剩デ困ルト云フコトモ、其禍根ハ二十年以上ノモノガ多イニ依ルノデアリマシテ、是ハ統計ガ明カニ示シテ居リマス、是ハ二十年以上ノ船ハ船舶ガ惡イノデアルカラ、斯ウ云フモノヲ出來ルダケ罷メル、十年乃至二十年ノ船舶ニ來マスト相當缺點モアリマスガ、併シ今日ノ日本ノ海運ノ狀態ニ於テハ之ヲ阻止シテ了フト云フコトハ是ハ如何ナモノデアラウト思ヒマス、又先程内藤サンカラモ御話ガアリマシタ通り、外國デハ船舶主協會デ十二年目毎ニ嚴重ナル検査ヲスル譯デアリマスガ、其以下ノヤツガ流達ムヤウナ御話モアリマシタガ、ソレハ御話ノ通り十二年目毎ニ嚴重ナル検査ヲヤリマスノデ、其場合ニハ船舶主ノ負擔ガ輕クナイト云フ所カラ手離スト云フコトニナリマスガ、現ニ所持シテ居ルモノハ第一回ノ十二年目ノ特別検査ノ前ニ賣拂フコトハ比較的少イモノノヤウニ考ヘマス、ソレハ十二年目ニ大修繕ヲ致シマシテ、更ニ二回目ノ時、即チ二十四年目ニ手離スト云フコトガ多イヤウニ聞イテ居リマス、ソレデ日本ニ流レ込ムノハ二十年以上ノモノガ多イト云フコトヲ考ヘマシテモ、矢張り第二回ノ検査前ニ手離

スト云フコトガ最も多クハナイカト考ヘテ居リマス、又ソレ迄ニハ船質ガ惡クナッテ居リマスカラ、サウ致シマス先ヅ二十年位ノ所デ喰止メルコトハ最も穩當デハナイカト思ヒマスケレドモ、私ハ十年乃至二十年ノ船ハ良イトハ申シマセヌガ、免ニ角日本ノ現在ノ經濟狀態カラ申シマシテモ、之ヲ全然阻止スルノハ如何ナルモノデアラウ、又日本ト致シマシテモ古船ハ相當働クノデアリマスガ、世界第三位ノ海運國ニナッタ恩惠ト云フモノハ古船ノ御蔭デアリマスカラ、古船々々ト言ッテ之ヲ排斥スルト云フコトハ、私ハ今日ノ日本ノ船舶ヲ減スヤウナ形ニナルト思ヒマス、サウ考ヘテ居リマスノデ、御説ハ御尤デアラウト思ヒマスガ、今日ノ狀態デハ斯ウ云フ程度ニスルノガ最も適當ト考ヘテ居リマス

ハ、船ノコトヲ知ラヌ人ガ言フノデアッテ、船ノコトヲ知ッタ人ハ決シテサウハ言ハナイ、免ニ角日本ノ航海業ヲ益盛ニスルト云フコトニナリマス、造船業者ト、船舶業者トハ別ニ見テ頂戴シマセヌト、北米トカ、或ハ上海、香港、濠洲トカ、南米ダトカ云フヤウナ工合ニ、定期船ニナルモノハ、必ズ日本ノ造船所デ拵ヘテ、御命令ニナッテモ政府ノ御補助モアルノデアリマスカラ其通りニシヤウト思ヒマスガ、又値段ヒマスガ、併シ是ガ貨物船ニナリマスト値段ガ少シデモ高イト云フト第一ニ商賣ガ出來ナイ、誰ダッテ船ノ良イモノヲ持チタイノハ當然ノ譯デアリマスケレドモ、算盤上合ハナケレバ營業ヲスル者ハナイノデアリマスカラ、日本ノ航海業ト云フモノハ殆ト出來ナイト云フコトニナリマス、之ヲ汽車ニ例ヘテ見ルト貨物船ト云フモノハ三等客車ト同ジデ、一二等ガ即チ是ハ「メー」船ト云フヤウナ工合ニナッテ居ル、一番儲ケルノハ貨物船デアル、然ルニ現今ニ於テモ日本デ船ヲ注文イタシマスレバ、先ヅ注文一噸ニ對シテ殆ト百三十圓位ノモノデアル、歐羅巴ニ注文イタシマスルト、一噸百圓位出來マス、サウスルト頭カラ日本ノ造船所デ拵ヘタノハ三十圓高イ、三十圓高イトソレニ對スル金利、ソレニ對スル保險料ト云フモノガ加算シテ來ル、今デハ日本ノ給金モ高クナリマシテ、先ヅ英國モ殆ト同様、食料モ殆ト同様、サウシテ今カラサウ云フ船ヲ多ク働カセルノニハ、皆外國ニ行クナケレバナラヌ、今三百八十萬噸バカリノ中デ、定期船其他ヲ入レテ八十萬噸位デアリマス殘リノ三百萬噸ハ皆外國ニ行ッテ働カナケレバナラヌ、サウスルト世界ノ市場ニ立チマシタ時ニ、英國ノ船ト日本ノ船ト比較スルト、

矢張り英國ノ船ノ方ヲ外國人ガ信用スル、日本ノ船ガ落ちルト云フコトニナリマス、ソレデ「チャーター」料トカ運賃ニシマシテモ幾分カ安ウシナケレバナラヌコトニナッテ來ル、然ルニ船價ニ於テハ三十圓高イトスレバ、金利モ保險モ見ナケレバナラヌ、今ノ金利ハ英國ヨリモ高イ、ソレデ運賃ノ方ハ英國ノ方ガ安イト云フコトニナッテ居リマスカラ、餘リ制限ヲ御置キニナルト、客船ハ差支ナイト思ヒマスガ、貨物船ハ今後段々ナクナルト思ヒマス、是ハナクナルノガ當然ダト思ヒマス、其邊ニ付テハ遞信省ニ於テハ十分ニ御考ヘニナッテ頂キタイ、先内田サンガ管船局長ヲシテ居ラレタ時分ニ、日本ノ船舶ガ非常ニ困難シマシテ、内田サンナカニ御願シマシテ濫澤男爵ガ委員長ニナッテ、私モ副委員長ニナリマシテ船ノ調査ヲシタコトガアリマシタガ、其時分ニ船舶ノ検査、價格ヲ定メル検査ヲ遞信ノ技師：造船所技師ト云フ者ニシテ貰ッテ、其場合ニ私ハ再三内田サン其他ニモ參リマシテ技術家ナドノスルコトハ構造ノ如何ニ依ッテ高イ安イガ起ッテ來ルノダガ、我ハドチラカト云フト其船ノ働ニ依ッテスルノデアルカラ、必ズ我ハ著眼スルモノハ足ガ、何ボ、石炭ガ何ボ、速力ガ何ボ、荷物ガ何ボト云ッテ、此船ハ速力モ早イ洵ニ立派ナ船ダケレドモ儲カラヌ、儲カラヌ船ハ安クナルカラソレハ我ハニ於テハ困リマス、アナタ方折角ノ船ガ壞レシマヒマスト言フト、内田サン初メ遞信大臣ガ御認メニナラヌ、已ヲ得ズ止メテ置イタヤウナ次第デ、ソレガ出來上ッテ銀行集會所デソレヲ御渡シニナッテ、九萬圓ノ船ガ二十萬圓ニモナッテ、二十萬圓ノ船ガ八萬圓ニナッテ私ガ云フ通りニナッテ、高イヤハ出ス

ガ安イヤツハ皆逃ゲテシマフト云フコトニ
ナツタ、今ノ御議論デモ固ヨリ船主ト雖モ新
イ船ハ希望シマスケレドモ、算盤ノ如何ニ
依テ儲カルモノデアルヤ否ヤト云フコトニ
ナツテ來マスカラ、ソレヲ御考ヘニナツテ來

マセヌト、日本ノ造船業ヲ起スト云フ點ニ
於テ、ソレハ今客船ナドヲ拵ヘサストカ又
軍艦ヲ拵ヘサスト云フコトハソレハ保護サ
セナケレバナラヌ、普通ノ貨物船ハ外國船

ト競争シテ世界ニ行テ働カナクチャナラ
ヌノダカラ、是ハ外國ト同様ニセメテハ出
來ルヤウニ獎勵法デモ設ケテ頂戴スルト

カ、又ソレダケノ獎勵法ガ出來ネバ、外國
カラ輸入スル船ハ税金ハ成ルタケ取ラヌト
云フ方針ニ一ツ願ヒタイ、サウセネバ日本

ノ船舶ガ段々減ツテ行ク、又先刻七八年度カ
ラ或ハ四十五年度ト云フ御議論モアリマシ

タガ、皆船主デハ十四五年ノ船ガ一番勸メ
ラレテ居リマス、三年位カラ段々能クナツテ

來テ十年位マデガ使ヒ頃デ、二十年頃マデ
ハ日本デハ使ヒ頃トシテ居リマス、又外國

人モ之ヲ十分信用シテ居リマス、唯商賣ノ
出來ルヤウニシテ頂戴セヌト、此警澤稅或

ハ骨董物トハ違フノデスカラ、其邊ヲ能ク
御研究ヲ爲シテ頂戴セヌト、日本ノ海運ハ

段々疲弊スルヤウニナリマスカラ、是ハ是
非偏ヘニ御願ヒ致シタイ、ソレデ私共ハ成

ルベクナラバ船舶ニ對シテハ無稅ニシテ貫
ヒタイ位デアリマスカラ、ドウゾ一ツ……
○委員長(伯爵柳澤保惠君) モウ通信大臣
ニ御質問ハゴザイマセヌカ、宜シウゴザイ
マスカ、ソレデハ又五類ニ戻リマス
○岡崎藤吉君 前ノ分ニ遡ル譯ニハ參リマ
セヌカ
○委員長(伯爵柳澤保惠君) 今五類デスカ
ラ、五類以前ナラバ是ガ濟ンダ後ニ御願ヒ
致シマス、五類ハ質問ハゴザイマセヌカ、

御發言ガナイヤデアリマスカラ、五類ニ御
質問ガナイト認メマシテ第六類ニ移リマス
○男爵東郷安君 五類ノ中ノ礦油ニ關シテ
ハ追テ商工大臣ノ出席ノ際ニ質問ヲ致シ
タイト思ヒマス
○委員長(伯爵柳澤保惠君) 宜シウゴザイ
マス、保留シテ置キマス、第六類、對照表
ノ方ハ二十四枚……

○內田嘉吉君 私ハ前回ニ一ノ例トシテ私
ノ御質問ヲスル場合ニ引證ヲ致シマシテ、
百四十九ノ黃燐、赤燐、硫化燐、百六十四

ノ苛性曹達等ニ付テ御尋ヲ致シタノデアリ
マスガ、尙ホ百四十九ノ黃燐、赤燐、硫化

燐ニ付テ此無稅ニスルト云フコトノ必要ハ
ドウ云フ點カラ起タノデアリマスガ、ソレ

ヲ大體御伺ヒヲ致シタイ、無稅ニシテ留メ
テ置イタト云フ……ナヨット補充シテ置キ

マスガ、前回申上ダタヤウナ此稅ガ無稅デ
アリマスルガ爲ニ外國ノ輸入品ニ壓倒セラ

レマシテ、今日デハ殆ド日本人ノ手ニ於テ
經營スルモノガナクナツテ、外國人ガ參リ

マシテ其事業ヲ受繼イデ、外國ノ原料ヲ取
テ製造ヲシテ居ル、斯ウ云フコトデアリマ

ス、其事業ガ詰リ無稅デアッタ爲ニ潰レテ
シマツタ、當業者カラハ再三相當ノ保護ヲ

與ヘラレムコトヲ希望シタ譯デアリマス
ガ、其儘ニナツテ居リマスガ、是ハ御考慮

下スタ譯デアリマスガ、如何デアリマス
カ
○政府委員(矢部規矩治君) 從來黃燐、赤
燐、硫化燐ハ「マツチ」ノ原料ニナル爲ニ使
ハレテ居ルノデアリマシテ「マツチ」ハ御承
知ノ如ク日本ノ重要輸出品ニナツテ居リマス
所カラシテ、之ニ影響ヲ及ボスコトヲ能ク
考ヘマシテ無稅ニシテアルノデアリマス、
唯今內田議員カラシテ御話ノ如ク、現在外
國人ノ經營ニナルヤウニナツテ居ルノデゴ

ザイマスガ、矢張り「マツチ」ノ營業等ヲ考
ヘマシテ現在ノ如ク無稅ニ致シテ置クノガ
相當ト考ヘタ譯デゴザイマス、大體……
○內田嘉吉君 尙ホ關聯イタシマシテ百七
十六ノ「クロール」酸加里ト云フノモ矢張り
是モ「マツチ」ノ原料ニナルモノト承知シテ居

リマスガ、是モ矢張り依然トシテ無稅デア
リマスガ、是等ノ仕事モ折角日本デ起タ
ノガ此百四十九ト同ジヤウニ日本人ノ手カ

ラ離レ、又其事業ガ倒レテシマフト云フ結
果ニザッタノデアリマスガ、是等ハ折角日
本デ起タモノヲ潰シテシマツテモ差支ナイ

ト云フ御見込ナノデアリマスガ
○政府委員(矢部規矩治君) 「クロール」酸
加里ハ唯今隣ニ付テ述べタルト同様ノ趣旨

デアリマスノデ、「マツチ」ノ原料ニナル所
カラシテ「マツチ」ノ輸出ヲ助長セシムル爲ニ

無稅デアリマシタ、然ル所先年内地ニ於テ
之ガ製造ヲ企テル者ガゴザイマシテ、其製

造ヲ便利ニスル爲ニ百七十五ノ鹽化加里ヲ
無稅ニ致シマシテ、之ヲ獨逸カラ導キマシ

テ製造ヲ致スト云フヤウナ工合ニナツテ來
マシタ、一方内地ニ於キマシテハ海藻ヲ燒

キマシテ其灰カラ致シテ鹽化加里ヲ造リマ
シテ、之ヲ「クロール」酸加里ノ原料ニスル

ト云フ方法モゴザイマス、戰爭中ハ專賣局
ノ煙草ノ莖ヲ拂下ヲ受ケテソレヲ燒イテ、

ソレカラモ造ルト云フヤウナ工合デ、一時
外國ノ輸入ガ止マリマシタ時分ハ盛ンニ各
所ニ於テモ之ヲ造リマシタ、中ニハ其假リ
ノ設備ヲ致シタモノモアリマスガ、永遠ノ
目的ヲ以テ完全ナル裝置ヲ以テ製造イタシ
テ居ル者ガゴザイマシタガ、其後戰爭ノ休
止ト共ニ、段々景氣ガ惡クナリマシテ、昨
今ニ於テ此事業ガ休廢サレルト云フコトニ
ナリマシタ、今回ノ改正ニ於キマシテハ、
矢張り同様ニ致シ方ガナイコトデアリマス

カラシテ、無稅ト云フコトニ致シマシタ、
併シ商工省ニ於キマシテモ、大藏省ニ於キ
マシテモ、戰爭後非常ナル研究ヲ遂ゲマシ

タノデ、之ヲ救済スルヤ、否ヤニ付テハ、
急ラズ調査ヲ致シテ居ルヤウナ譯デアリマ

スガ、何分ニモ此燐寸業者ト、此加里ヲ造
ル者トノ間ノ利害ト云フモノガ、相反シテ

居リマシテ、一致ヲ見ズシテ居リマシタ、
ソレデ今日ニ於キマシテハ此事業ト云フモ

ノハ最早製造ヲ止メテ居ルノデアリマス、
併シ是ハ日本ノミデハナイノデ、亞米利加

ノ西海岸ニ於キマシテモ戰爭中ニハ相當勃
興イタシマシタノデアリマスガ、矢張り日

本ト同様ニ休止ヲ致シテ居リマスヤウナ譯
デアリマシテハ實ハ已ムヲ得ザルコトト

考ヘテ居リマス、其事業ヲ捨テテ顯ミナイ
ト云フ譯デハナイノデゴザイマスガ、一方

燐寸ノ方ノ影響ヲ考ヘマスト云フト、已ヲ
得ナイコト、致シテ居ルヤウナ譯デアリマ

ス
○內田嘉吉君 次ニ百五十四ノ醋酸ト、百
九十六ノ木精トニ付テ御尋ヲシテ見タイト

思ヒマス、此醋酸ノ製造ト云フコトガ、戰
時中、外國ノ輸入ガナクッタ時代ニ於キマ
シテ、或時代ニハ日本ノ相當ナル産業ニナ
テ來タヤウニ思フノデアリマスガ、是モ
間ク所ニ依ルト、外國製品ノ輸入ノ爲ニ、
今日ハ殆ンド滅亡ニ歸セムトシテ居ルヤウ
ナ狀態デアリマスガ、是等ニ付テ何カ相當
保護ノ方法ハナイモノデアリマセウカ、又
木精ヲ無稅ニシテヤラレルト云フヤウナ事
柄ハ却テ日本ノ此材料ハ生産スル工業ガ衰
微ニ歸シテ仕舞フカラ、已ヲ得ズサウヤル
ト云フコトノ御見込デアリマスガ、此事業
ハ再ビ日本ニ興ス必要ハナイト御見込デア
リマスガ、日本ノ木精ハ現行法デハ毎百斤五
圓九十五錢ノ課稅ヲシテ居タノデアリマ

スガ、今回ノ法案デハ無税ニサレテ居リマ
スガ、其點ニ付テ斯ウナスツノハドウ云
フ譯デアリマスカ、御説明ヲ願ヒタイと思
ヒマス

○政府委員(矢部規矩治君) 先ツ醋酸カラ
シテ御答ヲ致シマスガ醋酸ハ古クカラシテ
日本ニ發達シタ事業デアリマシテ、是ガ原
料タル醋酸石灰ハ各府縣ニ於テ出來テ居リ
マス、處ガ醋酸ノ値ガ下ガリマシテ、日本
ノ醋酸石灰ハ高クテ買入レルト云フコトガ
出來ナイト云フコトニナリマシテ、現在デ
ハ亞米利加ノ醋酸石灰ヲ買入レテ、ソレヲ
土臺トシテ造ッテ居ルヤウナ次第デアリマ
ス、ソレデ此醋酸石灰ハ戰爭中重ニ海外ニ
輸出ヲ致シテ居リマシタノデ、新嘉坡等ニ
於ケル採收シタル護謨ヲ凝固セシメル爲ニ
大ニ需要ガアリマシタガ、ソレデ戰爭中獨
逸品ヤ、何カデ輸出ヲ見ナイ間ニ於キマシ
テハ、主トシテ日本品ガ使ハレテ居リマシ
タノデ、非常ニ盛ンニ輸出ヲ致シテ居リマ
シタノデアリマスガ、戰爭終結後輸出ガ止
マリマシタ所カラシテ、各會社等モ非常ニ
困難ニ陥キリマシタ、ソレデ現在ノ所ノ窮
狀ハ、輸入ト云フヨリモ、寧ロ輸出ガ衰ヘ
タ爲ニ困難ヲ認メラレテ居ルト云フヤウナ
譯デ、此御手許ヘ差上デマシタ表ヲ御覽ニ
ナリマシテモ輸入ハ二割……大正十四年ニ
於キマシテハ、二万四千圓ト云フヤウナ譯
デアリマシテ、出ル方ガ止マリマシタ爲ニ
困難ヲ致シテ居ルヤウナ譯デアリマス、是
等ニ付キマシテハ當業者モ非常ニ計畫ヲ運
ラシテ居ルノデアリマシテ、大ニ考慮ヲ致
シマシタノデアリマスガ、當業者ハ茲ニ聯
合「トラスト」ヲ造リマシテ、將來進マウト
云フコトニナリマシタノデ、茲ニ據置キニ
致シマシタノハ、聯合ノ成績ヲ見ル爲ニ據
置キニ致シテ置キマシタノデゴザイマス、

ソレカラ「フォルマリン」及木精ニ付キマシ
テハ、御承知ノ通り木精カラシテ「フォル
マリン」ヲ造ルト云フコトニナルノデアリ
マシテ、木精ハ「フォルマリン」ノ原料デゴ
ザイマス、我が國ニ於キマシテハ木材乾留
ノ副産物トシテ木精ヲ造リ、其木精カラシ
テ「フォルマリン」ヲ造ルト云フコトニナル
ノデアリマスガ「フォルマリン」ハ非常ニ需
要ガ多イノデ、各地方ニ於ケル養蠶ノ器具
ヲ消毒シ、養蠶ノ傳染病ヲ防グト云フコト
ニ多ク使ハレテ居ルノデゴザイマス、其他
各工場等デ防腐ニ使ハレテ居ルノデアリマ
ス、處デ問題ハ日本ノ内地ニ於テ木精ヲ
造ッテ、サウシテ「フォルマリン」ト云フモ
ガ自給ガ出來レバ誠ニ結構デアリマスケレ
ドモ、左様ナコトガ出來ナイノデ、日本デ
出來マス所ノ木精ナルモノハ誠ニ微々タル
モノデゴザイマシテ、到底此「フォルマリ
ン」ヲ製造スルニハ足りナイノデアリマス、
尙ホ且ツ「フォルマリン」ノ稅ヲ引上デマシ
テ、尙ホ且ツ木精ノ稅ヲ引下デマスト云フ
ト、内地ニ於テ出來ルト云フコトニナラウ
ト考ヘラレマスガ、此「フォルマリン」ノ稅
金ヲ上ゲルト云フコトニ付テハ、非常ニ影
響スルコトガ多イ、農家ニ對スル苦痛デア
ルト云フ議論ガアリマスノデ、ソレヲ避ケル
方法ト致シマシテハ「フォルマリン」ノ稅ヲ
據置キニ致シマシテ、サウシテサウ云フ計
畫ノ下ニ考ヘテ立テマシタノデアリマスガ
ラ、木精ノ税金ヲ上ゲルト云フコトハ出來
ナイ、尙ホ且ツ微々タルモノデアリマスガ
ラシテ、寧ロ「フォルマリン」ノ事業ヲ助ケル
爲ニ之ヲ無税ニ致シマシテ、外國カラ取ル
方ガ宜シカラウト、已ヲ得ザル策トシテ出
デタヤウナ譯デアリマス

ノ増率ガゴザイマシテ、大年十年デアリマ
シタカ、七十錢ヲ一圓五十錢ニナリマシ
タ、其以來次第ニ生産額ガ増加シテ參ッ
ヤウナ譯デアッテ、間ク所ニ依リマスト、最
近デハ内地ノ税金ガ六割デ、輸入ガ四割ニ
ナッタノデアリマス、併ナガラ外國ニハ詰
リ大キナ競争ヲスル製造會社ガアリマスノ
デ、動モスルト日本ノ此事業ガ壓倒セラ
ルト云フヤウナ虞ガアルサウデゴザイマ
ス、今日ノ狀態デハ非常ニ此製造業者ガ困
難ヲ感ジテ居ルヤウナコトデ、現在ノ四分
六ノ、其六分ノ位地ヲ維持スルノニ餘程困
難ヲシテ居ルヤウナ關係デアリマス、其困
難ノ起リマシタノハ一ツハ他ノ關係カラ來
タラシイヤウデアアル、即チ此電力等モ高ク
ナッテ來タト云フヤウナコトモ一ツノ原因
デアラウ、凡ソ一錢デアッタモノガ二錢ニ
ナルト云フヤウナコトモアラウト思フ、併
ナガラ是ハ相當ニ保護イタシマスレバ全然
日本ノ産業トシテ相當ノ成績ヲ舉ゲルコト
ニナルモノト思フノデアアル、夫等ニ對シマ
シテモウナト此事業ヲ關稅ニ依ッテ保護ス
ル御意見ハナイノデアリマスガ、現在百斤
一圓五十錢デアリマスガ、當業者ノ希望ト
シテハ更ニ若干増加シテ百斤二圓五十錢
位ノ程度ニシテ貰ヘバ、外國品トノ競争ガ
出來テサウシテ相當ニ外國品ヲ驅逐スルコ
トガ出來ヤシナイカト云フコトヲ言ッテ居
リマスガ、是ハ確カ今度稅率ガ少シ増シタ
譯デアリマスルガ、モット殖シテ貰ヒタイ
ト云フ希望モアリマスルガ御意見ハ如何デ
ゴザイマス

正十年ニ當時ノ税金ガ一割稅ノ七十錢デア
リマシタモノヲ、一割五分ノ一圓五十錢ニ
引上ゲタ、其後順調ニ進ンデ參リマシテ、
相當ニ經營サレテ居ルノデアリマス、今回
ノ改正ノ際トシマシテ調査シタノデゴザイ
マスガ、餘リ豊カナ經營デモナイ、大分困
難ニナッテ居リマス、此物ガ原料デナクッ
テ終局ノ商品ニ供セラレルモノデアリマス
ト、相當稅ヲ引上ゲテモ宜シカラウト思ヒ
マスガ、御承知ノ通り「シャボン」ノ材料ト
ナリ紙ヲ晒ス原料ニナリ石油ヲ精製スル原
料ニナル、數ヘマスルト非常ニ用途ガ多
イ、此儘ノ引上ゲハ商工業ニ及ボス影響ガ
少クナイ、出來得ルナラバ成ルベク引上ゲ
ズニ行キタイト云フ希望カラシテ據置キニ
イタシマシタ、併ナガラ此事業ハ相當重要
ナモノニナッテ居ルノデアリマスカラシテ、
今後外國品トノ競争ニ於キマシテハ注意ヲ怠
ラナイト云フ見込ミデ此案ヲ立タ譯デゴザ
イマス

○内田嘉吉君 百六十五項ニアル曹達灰是
ハ三十五錢ノ稅率ガ現在ト同ジコトニナ
テ居リマスルガ、是ハ原料トシテ鹽ヲ廉ク
スルコトガ必要デアリマスノデ、是ハ色ミ
大藏當局ニモ御願ヒシテアルサウデアリマ
スガ、若シ鹽ガ廉クナラヌトスルト相當ニ
關稅デ保護シテ頂クコトニナラナケレバ、餘
程經營困難ダト云フコトヲ當業者ハ申シテ
居リマスガ、之ニ對シマシテ關稅率ヲ現在
同様ニ御認メニナッテ理由ト、ソレカラ鹽
ニ對シテ大藏省ノ專賣局カラ御拂下ケニナ
リマスルニ付キマシテドウ云フ關係ガアリ
マスカ伺ヒタイ、便宜ヲ與ヘテ居ルカドウ
カ……

○政府委員(矢部規矩治君) 此事業ハ非常
ニ困難ナ事業デアリマシテ、戰爭ノ初メニ
當リマシテ色ミ此事業ニ付キマシテ調査ガ

途ダラレマシテ、關西ノ方ニ於キマシテハ一大工場が設ケラレタヤウナ次第デアリマス、併ナガラ外國品ノ爲ニ影響ヲ受ケテ、思フヤウニ行立タナイト云フ譯デアリマス、ソレハ主ニ外國カラ輸入サレル品ガ「ブラーモンド」會社ノモノデアアル、一方ハ亞米利加ノ「マガジ」製造會社ト云フモノガ立テラレテ、其品ト「ブラーモンド」トノ品ノ競争ニ依リマシテ大分ニ価ガ下ッテ参リマシテ、一時ハ百斤二圓七十錢ト云フヤウナマデニ下リマシタヤウナ譯デ、大分困難ニ陥リマシタ所デ現在ニ於キマシテハ「マガジ」ナルモノハ破産ヲシテ「ブラーモンド」ノ方ニ歸シタヤウニ思ヒマスケレドモ、

サレテ、今尙ホ議議中デアリマス、併シ一方硝子ノ製造ニ使ハレル曹達灰ニ付テハ相當成功ヲシテ居リマスノデ、是ニ付キマシテハ注目サレテ居ルヤウデアリマス、併シ尙ホ廣東邊ノ曹達灰ニ付キマシテハ、昨年之ヲ無稅ニスルト云フ方法ガ立テラレテ居リマスノデ、現在ニ於テハ、内地ノ大ナル資本家ハ廣東邊ニ於テ拵ヘテ内地ノ無稅デ入レル所ノ方法ヲ研究シテ居ルヤウニ聞イテ居リマス、是ハ相當ニ計畫ガ進ンデ居ルヤウニ承知イタシテ居リマス、

ル仕事デアラウト思ヒマスガ、モウ少シ之ニ對シテ當業者ノ意見ヲ御容レ下サイマシレバ、相當ニ成立ヲシテ行クベキモノデハナイカト思フ、餘リ主要ナモノデハアリマセヌガ、簡單ニ政府ノ所見ヲ御聽カセテ願ヒタイト思ヒマス

モ用途ハ多ク清涼飲料ノ材料ニナルノデアリマスガ、之ヲ引上ダラレテ理由ハ何所ニアリマスカ

○政府委員(矢部規矩治君) 茲二百六十二

他ノ事業ニ影響ノアル如クニ上ッテ参リマシタノハ、日本ニ對シテ不都合ナル値段ヲ立テ居ルヲシテ見ヘルノデアリマス、ソレガ爲ニ當業者が大分困難ヲ致シテ居ルノデアリマス、常ニ此關稅調查會ニ於キマシテノ問題トナッテ如何ニ之ヲ救済スルカト云フコトガ論議セラレル、論議セラレル度毎ニ、關稅デハ到底救済ガ出來ナイ、他ノ方法ヲ以テヤラナケレバナラヌト云フ結論ニ及ビマスノデ、ソコデ初メテ唯今ノ御話ノ如ク專賣局カラ鹽ヲ廉價ヲ以テ拂下グル、斯ウ云フコトニ御希望ガ、當業者ノ間ニ起ッテ來ルヤウニナッテ参リマシタ、

○內田嘉吉君 私人化學工業ニ付テノ專門ノ知識ハ持タヌノデアリマスルガ、同志ト共ニ化學工業協會ト云フモノヲ組織イタシテ居リマシテ、此化學工業ナル事業ガ日本ニ非常ニ大切ナモノデアルト云フ見地カラ、此事業ヲ日本ニ興シタイト云フ考ヲ以テ協會ニ於キマシテ種々研究ヲシテ、政府ニ色色建議ヲ申上ダタノデアリマス、其中今回ノ改正ニ於キマシテハ色々御採用ニ相成タノガアリマス、就中大キナモノト致シマシテハ、先程御話モアリマシタ「グリセリン」ノ製造ノ如キ最も主要ナモノデアリマス

○政府委員(矢部規矩治君) 唯今御尋ノ中ノ硅酸曹達ニ付キマシテハ稅率ヲ引上ダマシテ之ヲ保護スルコトニ致シマシタ、是ハ唯今御話致シマシタ如ク曹達灰ヲ使ヒマスノデ、其曹達灰ガ「ブラーモンド」ノ所有ニ歸シテ以來段々此事業ガ困難ニナリマシタ爲ニ、之ヲ保護スル稅率ヲ引上ダテ之ヲ保護スルコトニナリマシタ、過滿俺酸加里ニ付キマシテハ、是亦保護スル見込デゴザイマシタガ、現在デハ製造ガ行ハレテ居リマセヌノデ、是ガ保護ハ將來ニ於テ致ス見込ミデアリマス、硝酸加里ハ茲ニ特別ニ稅表ニ掲ゲマシタノハ二百二十九號ノ其他ノ諸藥劑ト云フ中ニアリマシタノデゴザイマス

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 宜シウゴザイマス、內田サンノ御問ガ保留シテゴザイマス、是ニ殘シテ置キマス、今日ハ是デ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス

午後五時零分散會

テ來ルヤウニナッテ参リマシタ、

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 宜シウゴザイマス、內田サンノ御問ガ保留シテゴザイマス、是ニ殘シテ置キマス、今日ハ是デ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 宜シウゴザイマス、內田サンノ御問ガ保留シテゴザイマス、是ニ殘シテ置キマス、今日ハ是デ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 宜シウゴザイマス、內田サンノ御問ガ保留シテゴザイマス、是ニ殘シテ置キマス、今日ハ是デ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス

午後五時零分散會

出席者左ノ如シ
委員長 伯爵柳澤 保惠君
副委員長 男爵斯波忠三郎君

委員

子爵八條 隆正君

大塚勝太郎君

和田彦次郎君

内田 嘉吉君

神野勝之助君

男爵郷 誠之助君

男爵東郷 安君

倉知 鐵吉君

中川小十郎君

内藤 久寛君

稻畑勝太郎君

岡崎 藤吉君

磯貝 浩君

國務大臣

遞信大臣 安達 謙藏君

政府委員

大藏省主稅局長 黒田 英雄君

大藏技師 矢部規矩治君

商工省工務局長 宮内國太郎君

遞信政務次官 頼母木 桂吉君

遞信省管船局長 宮崎 清則君

大正十五年三月二十二日印刷

大正十五年三月二十三日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局